

### 3.4 計画と実績 — 農学部

計 画	実 績																
<p>◦ <u>目的</u></p> <p>1985年度は、プロジェクトの協力延長3ヶ年の初年度である。この協力延長の目的は農学部の基盤整備であり、それを通してR/Dに示された当初の協力目的の完了を目指す。</p> <p>1. シラバスに示された教育目的 ケニアの農業分野の発展に貢献しうる中堅技術者の養成 (Ordinary Diploma)。 各学科の詳細は、学部別計画に示す。</p> <p>2. 上記の目的を達成するに十分な教育陣の育成及び施設を整備すること。</p> <p>◦ <u>毎年の入学及び教育</u></p> <p>1. 毎年の入学</p> <table border="1" data-bbox="295 1216 734 1429"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園 芸 学 科</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>農 業 工 学 科</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>食 品 加 工 学 科</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 国家試験 1986年3月に実施予定。</p> <p>◦ <u>活動</u></p> <p>1. 授業 当初のR/Dには、ケニア側カウンターパートが育成されるまで、日本人スタッフは学生に対する授業を担当することになっている。しかし、協力延長期間には、日本人スタッフの授業分担を減少せしめ、授業から、本来の業務</p>	学 科	人 数	園 芸 学 科	30	農 業 工 学 科	36	食 品 加 工 学 科	20	<table border="1" data-bbox="885 1216 1324 1429"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園 芸 学 科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>農 業 工 学 科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>食 品 加 工 学 科</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学 科	人 数	園 芸 学 科		農 業 工 学 科		食 品 加 工 学 科	
学 科	人 数																
園 芸 学 科	30																
農 業 工 学 科	36																
食 品 加 工 学 科	20																
学 科	人 数																
園 芸 学 科																	
農 業 工 学 科																	
食 品 加 工 学 科																	

計 画	実 績
<p>である技術移転への役割の移行が合意されている。</p> <p>詳細は学期毎にケニア側と協議して定める。</p> <p>2. 技術移転</p> <p>(1) 日本に於ける研修</p> <p>JICA：12名 文部省：未定 研修員の項参照。</p> <p>(2) 現場に於ける技術指導</p> <p>日本人スタッフはケニア側カウンターパートに技術指導及び助言を行うことになっている。</p> <p>詳細はその都度ケニア側と協議し定める。</p> <p>・ペアー方式を授業、研究、プロダクションユニット、教材整備の中で推進する。</p> <p>3. 教材整備</p> <p>上述のように技術移転の一環として本年も整備を促進する。</p> <p>4. 研究活動</p> <p>(園芸学科)</p> <p>既に開始している研究を、継続し、完成に努める。</p> <p>他の分野に於いても研究活動の基盤整備を行う。</p> <p>(農業工学科)</p> <p>適正技術の開発を推める。</p> <p>研究の基盤整備をする。</p>	

計 画	実 績
<p>(食品加工学科)</p> <p>人材ニーズの調査を行う。</p> <p>加工食品市場の分析を行う。</p> <p>未利用資源の有効利用に関する研究を推める。</p> <p>研究の基盤を整備する。</p> <p>5. プロダクションユニット</p> <p>学科間にバラツキがあるが、食品加工学科と農場では、小規模でも実施を試みる。</p> <p>6. その他</p> <p>(1) 基盤整備の観点より農業工学科の教官確保を積極的に推進する。</p> <p>(2) アカデミックポリシー承認に対し積極的に働きかける。</p> <p>(3) 農場利用計画の整備を推進する。</p>	

計 画				実 績																																																							
<p>○投入</p> <p>1. 人員</p> <p>(1) 日本人スタッフ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">専 門 家</th> <th rowspan="2">協 力 隊 員</th> </tr> <tr> <th>長</th> <th>短</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園 芸 学 科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>農 業 工 学 科</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>食 品 加 工 学 科</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>農 場</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	専 門 家		協 力 隊 員	長	短	園 芸 学 科	2	2	2	農 業 工 学 科	4	5	4	食 品 加 工 学 科	3	2	3	農 場	2	1	4	計	11	10	13	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">専 門 家</th> <th rowspan="2">協 力 隊 員</th> </tr> <tr> <th>長</th> <th>短</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園 芸 学 科</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>農 業 工 学 科</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>食 品 加 工 学 科</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>農 場</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	専 門 家		協 力 隊 員	長	短	園 芸 学 科	2	1	2	農 業 工 学 科	1	0	4	食 品 加 工 学 科	2	0	3	農 場	2	0	1	計	7	1	10
区 分	専 門 家		協 力 隊 員																																																								
	長	短																																																									
園 芸 学 科	2	2	2																																																								
農 業 工 学 科	4	5	4																																																								
食 品 加 工 学 科	3	2	3																																																								
農 場	2	1	4																																																								
計	11	10	13																																																								
区 分	専 門 家		協 力 隊 員																																																								
	長	短																																																									
園 芸 学 科	2	1	2																																																								
農 業 工 学 科	1	0	4																																																								
食 品 加 工 学 科	2	0	3																																																								
農 場	2	0	1																																																								
計	7	1	10																																																								
<p>(2) ケニア人スタッフ</p> <p>教官の数は、計画を上まわっているが、適正配分の観点から充足度を見直し、教官配置を是正する。</p> <p>特に農業土木分野の教官の確保を推進する。</p> <p>テクニシヤンの確保を推進する。</p>																																																											
<p>2. 機材</p> <p>プロジェクト全体</p> <p>1985年度 6,000万円</p> <p>内機材総数 4,500万円</p> <p>仕様書、機材リストは作成中。</p>																																																											

計 画		実 績																																			
3. 研修員																																					
JICA : 12名																																					
文部省 : 未定																																					
		60年9月上旬現在																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">園 芸 学 科</td> <td>JICA 2</td> </tr> <tr> <td>文部省 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">農 業 工 学 科</td> <td>JICA 1</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">食 品 加 工 学 科</td> <td>JICA 1</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">農 場</td> <td>JICA (1)</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>JICA 5</td> </tr> <tr> <td>文部省 1</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	人 数	園 芸 学 科	JICA 2	文部省 1	農 業 工 学 科	JICA 1	文部省 0	食 品 加 工 学 科	JICA 1	文部省 0	農 場	JICA (1)	文部省 0	計	JICA 5	文部省 1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">園 芸 学 科</td> <td>JICA 1</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">農 業 工 学 科</td> <td>JICA 0</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">食 品 加 工 学 科</td> <td>JICA 0</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">農 場</td> <td>JICA 0</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>JICA 1</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	人 数	園 芸 学 科	JICA 1	文部省 0	農 業 工 学 科	JICA 0	文部省 0	食 品 加 工 学 科	JICA 0	文部省 0	農 場	JICA 0	文部省 0	計	JICA 1	文部省 0
区 分	人 数																																				
園 芸 学 科	JICA 2																																				
	文部省 1																																				
農 業 工 学 科	JICA 1																																				
	文部省 0																																				
食 品 加 工 学 科	JICA 1																																				
	文部省 0																																				
農 場	JICA (1)																																				
	文部省 0																																				
計	JICA 5																																				
	文部省 1																																				
区 分	人 数																																				
園 芸 学 科	JICA 1																																				
	文部省 0																																				
農 業 工 学 科	JICA 0																																				
	文部省 0																																				
食 品 加 工 学 科	JICA 0																																				
	文部省 0																																				
農 場	JICA 0																																				
	文部省 0																																				
計	JICA 1																																				
	文部省 0																																				
(注) 農場1名はJOCVベース																																					
4. 運営費 (要求額)																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科 \ 年度</th> <th>1985/86</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園 芸 学 科</td> <td>890,660</td> </tr> <tr> <td>農 業 工 学 科</td> <td>1,114,200</td> </tr> <tr> <td>食 品 加 工 学 科</td> <td>1,355,800</td> </tr> <tr> <td>農 場</td> <td>1,280,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,640,660</td> </tr> </tbody> </table>		学科 \ 年度	1985/86	園 芸 学 科	890,660	農 業 工 学 科	1,114,200	食 品 加 工 学 科	1,355,800	農 場	1,280,000	計	4,640,660																								
学科 \ 年度	1985/86																																				
園 芸 学 科	890,660																																				
農 業 工 学 科	1,114,200																																				
食 品 加 工 学 科	1,355,800																																				
農 場	1,280,000																																				
計	4,640,660																																				
(ケニアシリング)																																					

3.5 計画と実績 — 工学部

計 画	実 績																				
<p>○ 目的</p> <p>1985年度はプロジェクトの協力延長3ヶ年の初年度である。この協力延長の目的は工学部の基盤整備であり、それを通してR/Dに示された、当初の協力目的の完了を目指す。</p> <p>1. シラバスに示された教育目的 ケニアの工業分野の発展に貢献しうる中堅技術者の養成 (Part I、II、IIIのテクニシャン) 各学科の詳細は総合報告参照。</p> <p>2. 上記の目的を達成するに十分な教育陣の育成及び施設を整備すること。</p>																					
<p>○ 毎年の入学及び教育</p> <p>1. 毎年の入学</p> <table border="1" data-bbox="300 1355 737 1624"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木建築学科</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>機 械 学 科</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>電気電子学科</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>112</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 国家試験</p> <p>Part III 85年7月末実施予定 Part II           " Part I 85年11月末実施予定</p>	区 分	人 数	土木建築学科	44	機 械 学 科	38	電気電子学科	30	計	112	<table border="1" data-bbox="885 1355 1324 1624"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木建築学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機 械 学 科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気電子学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	人 数	土木建築学科		機 械 学 科		電気電子学科		計	
区 分	人 数																				
土木建築学科	44																				
機 械 学 科	38																				
電気電子学科	30																				
計	112																				
区 分	人 数																				
土木建築学科																					
機 械 学 科																					
電気電子学科																					
計																					

計 画	
<p>◦活動</p> <p>1. 授業</p> <p>当初のR/Dには、ケニア側カウンターパートが育成されるまで、日本人スタッフは学生に対する授業を担当することになっている。しかし協力延長期間には日本人スタッフの授業分担を減少せしめ、授業から本来の業務である技術移転への役割の移向が合意されている。詳細はケニア側と協議して定める。</p> <p>2. 技術移転</p> <p>(1) 日本に於ける研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA：JKCAT全体で12名 工学部より要請書提出済11名</li> <li>・ 文部省：未 定 研修員の項参照</li> </ul> <p>(2) 現場に於ける技術指導</p> <p>日本人スタッフはケニア側カウンターパートに技術指導及び助言を行なうことになっている。</p> <p>詳細はその都度ケニア側と協議し定める。</p> <p>◦ベアー方式を授業、研究、プロダクションユニット及び教材整備の中で推進する。</p>	

計 画	実 績
<p>3. 教材整備</p> <p>上述のように、技術移転の一環として本年も整備を促進する。</p> <p>4. 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動のための調査又は基盤作りを各科で行なう。</li> <li>・プロジェクトを現地スタッフと共に推進する。</li> </ul> <p>5. プロダクションユニット</p> <p>各科で何ができるか検討し案を出す。</p> <p>6. その他</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基盤整備の観点より各科の教官確保を積極的に推進する（特に建築コース、建設機械コース）</li> <li>(2) アカデミックポリシー承認に対し積極的に働きかける。</li> <li>(3) 見学セミナーを教育におり込む。</li> </ol>	



計 画		実 績																																													
<p>○投入</p> <p>1. 人員</p> <p>(1) 日本人スタッフ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">専 門 家</th> <th rowspan="2">協 力 隊 員</th> </tr> <tr> <th>長 期</th> <th>短 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木建築学科</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>機 械 学 科</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>電 気 電 子 学 科</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">専 門 家</th> <th rowspan="2">協 力 隊 員</th> </tr> <tr> <th>長 期</th> <th>短 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木建築学科</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>機 械 学 科</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>電 気 電 子 学 科</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ケニア人スタッフ</p> <p>教官の数は、計画を上まわっているが、適正配分の観点から充足度を見直し、教官配置を是正する。特に建築、建設機械部門の教官の確保を推進する。</p> <p>また、テクニシャンの確保を推進する。</p> <p>2. 機材</p> <p>(JKCAT全体として)</p> <p>1985年度 6,000万円</p> <p>内機械総数 4,500万円</p> <p>仕様書、機械リストは作成中</p>				区 分	専 門 家		協 力 隊 員	長 期	短 期	土木建築学科	4	1	3	機 械 学 科	4	1	3	電 気 電 子 学 科	2	1	2	計	10	3	8	区 分	専 門 家		協 力 隊 員	長 期	短 期	土木建築学科	3	0	2	機 械 学 科	3	0	2	電 気 電 子 学 科	2	0	2	計	8	0	6
区 分	専 門 家		協 力 隊 員																																												
	長 期	短 期																																													
土木建築学科	4	1	3																																												
機 械 学 科	4	1	3																																												
電 気 電 子 学 科	2	1	2																																												
計	10	3	8																																												
区 分	専 門 家		協 力 隊 員																																												
	長 期	短 期																																													
土木建築学科	3	0	2																																												
機 械 学 科	3	0	2																																												
電 気 電 子 学 科	2	0	2																																												
計	8	0	6																																												

計 画		実 績																													
<p>3. 研修員</p> <p>JICA : 12名</p> <p>文部省 : 未定</p>		<p>60年9月上旬現在</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">土木建築学科</td> <td>JICA 4</td> </tr> <tr> <td>文部省 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機 械 学 科</td> <td>JICA 4</td> </tr> <tr> <td>文部省 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電気電子学科</td> <td>JICA 3</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>JICA 11</td> </tr> <tr> <td>文部省 2</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	人 数	土木建築学科	JICA 4	文部省 1	機 械 学 科	JICA 4	文部省 1	電気電子学科	JICA 3	文部省 0	計	JICA 11	文部省 2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">土木建築学科</td> <td>JICA 3</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機 械 学 科</td> <td>JICA 2</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電気電子学科</td> <td>JICA 1</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>JICA 6</td> </tr> <tr> <td>文部省 0</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	人 数	土木建築学科	JICA 3	文部省 0	機 械 学 科	JICA 2	文部省 0	電気電子学科	JICA 1	文部省 0	計	JICA 6	文部省 0
区 分	人 数																														
土木建築学科	JICA 4																														
	文部省 1																														
機 械 学 科	JICA 4																														
	文部省 1																														
電気電子学科	JICA 3																														
	文部省 0																														
計	JICA 11																														
	文部省 2																														
区 分	人 数																														
土木建築学科	JICA 3																														
	文部省 0																														
機 械 学 科	JICA 2																														
	文部省 0																														
電気電子学科	JICA 1																														
	文部省 0																														
計	JICA 6																														
	文部省 0																														
<p>4. 運営費 (要求額)</p>																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科 \ 年度</th> <th>1985/86</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木建築科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機 械 科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気電子科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		学科 \ 年度	1985/86	土木建築科		機 械 科		電気電子科		計																					
学科 \ 年度	1985/86																														
土木建築科																															
機 械 科																															
電気電子科																															
計																															
<p>(ケニアシリング)</p>																															

#### 4. 一般教育

1. JKCATの一般教育の実施状況は、エバリュエーション・チームの訪問以降格段の進展はみられていない。このことは、JKCATの設置目的が中堅実務技術者の養成にあることや、ケニアにおける一般教育のあり方が日本におけるあり方とは基本的に異なっていることからすれば、ある程度止むを得ないことであろうが、今後の学制改革後のJKCATの位置付けを考えれば、この一般教育の充実は前向きに検討すべき事項の1つと思われる。
2. 現在JKCATにおける一般科目は、4科目（① communication ② technical report writing ③ rural sociology ④ government procedure and legal education）にすぎず、しかも、農・工各学部の各学科により採用される科目及び教授時間に差があるという問題がある。少なくとも、農・工各学部内では同一の教育課程を組み、可能であるならば共同講義を持つことが検討されるべきである。同学部内で、学科間における共同講義が実施されれば、一般科目担当スタッフの負担軽減、学生相互のコミュニケーションの促進等がメリットとして考えられよう。

また、現在JKCATには、中学校卒業よりも高等学校卒業者が中心となって入学しているが、彼らに対して専門教育の前に（あるいは並行して）、基礎的な素養づくりを行うという観点から、1990年以降をにらみつつも上記4科目以外の科目の採用、教授内容の易化等が早急に検討される必要があろう。

3. その際、日本の大学、短期大学の一般教育科目を参考とするよりも（1990年以降については勿論、それらが参考とされるべきではあるが）、むしろ高等専門学校の一一般科目の授業科目や時間数を参考にすべきであろう。

ちなみに、高等専門学校設置基準においては、その授業科目として、学科ごとの専門科目の他に各学科に共通する一般科目として次のものが挙げられている。

- 国語、社会、数学、理科、保健・体育、芸術及び外国語に関する授業科目。
- 人文、社会若しくは自然の分野に関する授業科目又はこれらの二以上の分野を総合した授業科目

また、その単位数（1単位時間を50分として、30単位時間の履修を1単位）は、85単位以上とされている。

4. これらの検討は、教官の増員、専門科目への時間的しわ寄せ教材の作成等、困難な問題を避けて通れないものであり、簡単には実施可能とは思われないが、今後の1つの方向の参考として報告することとする。

（参考） JKCATにおける一般科目教授の目的

##### Aims and Objectives of Teaching the Course

- (i) To enhance the scope of the students' development in general understanding of the environment in which they serve and interact with the general public.
- (ii) To demonstrate to the students, and tune them to appreciate the existence of a larger world than the machines and other technical equipment they are familiar

- with in a limited context.
- (iii) To cultivate in the students creative, analytical and evaluative abilities.
  - (iv) To train the students in the art of fluency of expression and promote their communicative abilities through speech and writing.
  - (v) To provide an understanding and respect for other professions.
  - (vi) To help the students relate their learning experiences to real life situations.

「JKCAT PROSPECTUS 1983/1984」

5. 図書館

1. エバリュエーション・チームの訪問後、図書館については若干の進展がみられた。すなわち、蔵書数が、タイトル数で2,700から3,500へ、総冊数で8,000冊から9,500冊へと増加するとともに、図書館のスタッフが14名（館長1、一般職員8、その他5）から、17名（館長1、一般職員（secretaryを含む）12、その他4）に充実されたことである。
2. しかしながら、学制改革により初めて高等学校卒業者のみを入学者として受け入れることとなる1990年以降の、ケニアの高等教育機関内におけるJKCATの位置付けを考えた場合、まだ次のような問題点があり、今後、引き続き改善のための努力が払われなければならない。

① 蔵書の整備

日本で大学を設置するのに必要な最低の基準は大学設置基準に定められているが、ちなみに、この基準により工学部と農学部を有する大学を設置しようとするれば、一般教育科目等に関する図書を含め、最低2万冊以上の図書、100種類以上の学術雑誌の種類が求められる（実際上は、国立の高等専門学校においても5～6万冊の蔵書を有している）。

JKCATにこのレベルの整備を求めることは無理であろうが、せめてケニア国内の他の高等教育機関レベルまでには、早急に整備を図る必要がある。

（参考）他の機関の蔵書数

	冊数
Mombasa Polytechnic	10,000
Kenya Technical Teachers College	12,000
Kenya Science Teachers College	35,000
Egerton College (1985年6月調べ)	40,000
Kenya Polytechnic (1985年6月調べ)	45,000

また、現在の9,500冊の内容、すなわち工・農各学部、各学科関係の基本図書、専門図書がそれぞれどの程度そろっているかという現状が不明という問題が指摘される。

従って、今後の整備にあたっては、各学科ごとに必要図書のアンケート調査等を行うなどの工夫により、何の分野のどのレベルのものを優先的にそろえるかといった整備計画を策定し、それに沿って充実させる必要がある。

この意味において、図書館スタッフ中、唯一の司書の資格を有し、TSCにより雇われている館長の強いリーダーシップと整備計画策定への学部、学科の積極的な協力が期待される。

## ② 職員の資質向上

職員の人数には問題はないと考えられるが、今後その資質向上のための研修が企画されることが望まれる。研修内容としては、本来の図書館の運営業務のほか、例えば、教授のための教材や資料の作成を大学で行わなければならないことの多い実情にかんがみれば、プリンティングやバインディングの技術研修が考えられよう。

## ③ 施設・設備

施設・設備についての一番の課題は、防音対策と強い日射し対策である。蔵書がまだ少いこともあり、足音も含め物音の反響がかなりの程度あるが、このためには床にカーペットを敷くとか、床をゴム敷きにする等の対応が必要となっている。図書館の利用状況は、個人的に書籍を持つことの困難さ（外国書籍は輸入によるため、高価なこと、入手しにくいこと）もあり、非常に活発であるが、落ちついて閲覧できる環境整備が図られる必要がある。

また、採光上の理由から比較的大きな窓が両面に低くとられているが、このことにより逆に日射しにより書籍が傷む、閲覧がしにくいといった問題が生じている。この解消のためには、日射しをさえぎるひさしを設置する等の工夫がなされるべきであろう。

（資料、JKCATの図書館案内を参照されたい。）

## 6. 日本語研修

これまで昭和55年からのカウンターパートの日本語研修及び留学において、日常生活時、技術研修時を問わず、日々相互の考え方の違い、教育の背景・習慣・文化の違いから様々なトラブルや誤解が生まれ、円滑な研修・留学の実施に支障が生じたことは事実である。受入れ研修機関も多くなり、本大学では特にカウンターパート派遣前オリエンテーションの一環として、日本語研修ならびに日本紹介（日本事情クラス）を実施している。

### (1) 日本語研修の現状

#### ア. 日本語クラス

講師：協力隊員 長瀬 修（派遣期間 58年1月21日～61年1月21日）

時間数：日曜日より金曜日まで 8：30～10：00

1学期12週なので90時間

初学期 初級Ⅰ 60時限 90時間

次学期 初級Ⅱ 60時限 90時間

初級Ⅱの終了時で180時間。

使用教材：わかる日本語 1.

Introduction to Modern Japanese

技術研修のための日本語 1.

初級Ⅰ、わかる日本語 1.に基づいて基本事項

口頭練習中心

初級Ⅱ、Introduction to Modern Japanese L.6～L.17

技術研修のための日本語 1. (復習)

イ. 日本語学習状況 (1984グループ)

1)	氏名	学科	試験A	試験B	出席率(%)
	Mr. J. M. Gachaki	機械	56	76	88
	Mr. N. W. Waitthaka	土木	71	74	95
	Mr. J. M. Kabira	機械	91	65	81
	Mr. J. G. Kigia	機械	34	45	90
	Mr. G. M. Wanjau	機械	75	43	77
	Mr. D. M. Munyi	土木	—	—	32

2)

Mr. J. O. Konyango	電気	84	—	95
Mr. C. Wamalwa	電気	43	—	89
Mr. S. G. Gichuru	食品	32	—	87
Mr. J. O. Owino	電気	48	—	92

1984年のグループには6月上旬より授業を開始した。その学期は8月の休みまで2ヶ月間連日計60時間確保できた。

試験Aは9月上旬に行なったものである。2)グループは12月上旬に出発したが、準備・手続のため10月中旬より授業に参加しなかった。

2)グループの出席率は9月末までのものである。

試験Bは11月23日に行なわれた。1)グループは11月で約150時間(日本事情は別に約25時間)の授業を終了した。

85年の1月分から3月までは週1時間、復習の時間を設けた。

Mr. D. M. Munyi は出席率が低いため出発が延期となっている。

研修員の出席状況、最終試験結果（初級Ⅰ）1985グループ （試験内容は別添  
のとおり）

最終試験結果

		出席率%	（1985年7月20日実施）
Ms. L. Mwajumwa	（食品）	97	100
Ms. N. Gachathi	（園芸）	93	89
Ms. W. Ngumi	（園芸）	93	91
Mr. F. K. Kisingu	（電気）	90	94
Mr. C. Orwa	（電気）	97	94
Mr. P. Kiarie	（電気）	99	74
Mr. D. Mukundi	（機械）	97	85
Mr. Muturi Thumbi	（土木）	95	88
Mr. F. W. Simba	（土木）	95	58
Mr. H. G. Mwaura	（土木）	83	※ 51

※ Mr. Mwaura は追試にて合格した。第1回は24点  
このグループは本年5月より7月まで90時間終了したものだ。

ウ. J.I.C.A 研修員への日本語学習方針

- 目 的：1) 日常生活に支障が無いような日本語の力を獲得させる。  
2) 日本事情の説明を行い適応性を増す。  
3) 専門分野を日本語を通じて学べる力を身に付けさせる。

- 構 成：1) 日本語クラスと日本事情クラス（オリエンテーション）からなる。  
2) 日本語クラスは初級Ⅰ（60時限）と初級Ⅱ（60時限）に分ける。  
3) 日本事情クラスは毎週1時限とし計24時限とする。  
4) 進歩が見られない、出席不良、逆に必要性が高く、興味が特に強い場合  
には授業数を増やすこともありえる。

- 進 級：1) 初級Ⅰの終了時に試験を行ない、50点を合格点とする。但し75%以上の出席を前提条件とする。  
2) 初級Ⅱの終了時に最終試験を行ない、50点を合格点とする。但し75%以上の出席を前提条件とする。

エ. 日本語研修と今後の研修員送出について

（修了と出発）

- 1) 初級Ⅱの修了後、日本に出発するものとする。
- 2) 初級Ⅰの修了者については、日本での語学研修を考慮に入れ、全ての受け入れの準備が為された場合には出発することを可とする。

3) 日本に滞在する期間が6ヶ月未満の場合には初級Ⅰのみを必修とする。

(2) 日本事情クラス

時間数：毎水曜日 14:00～16:00

第1学期 12時限 24時間

第2学期 12時限 24時間 計48時間

教材：フィルム

Japan of Today.

Nihongo notes: speaking & living in Japan

(3) 日本語研修の成果と今後のとりくみ

上記の日本語及び日本紹介研修の成果は、徐々にあらわれていると思われる。即ち、昭和59年度からの受入研修員に関しては、日本側の受入体制の整備とあいまって、日本での研修時のコミュニケーションギャップが軽減されつつあり、日本への適応も早く研修が円滑に進む傾向がある。

今後はC/Pへの早期の受入通報に努め、日本語研修への参加意識を高め、更なる研修の円滑化に資することが期待される。また、日本側受入機関の拡大に対処するためにも日本語研修を通じた事前の日本理解は重要である。



## JICA TRAINING PARTICIPANTS FILM ORIENTATION PROGRAM

At: audio visual room

On: Wednesday afternoon

- 15 May Japan, An Overview  
Kenyan Trainees in Japan
- 22 May Four Seasons of Japan  
Education in Japan
- 29 May Technology and Tradition  
Water for Agricultural Progress
- 5 June Yellow handkerchief of Happiness
- 12 June JICA 24Hours  
Touring Japan
- 19 June Agriculture in Japan  
Democracy in Japan
- 26 June Human Relations in Japan  
Japanese Architecture
- 3 July Labor Relations at Work  
JOCV
- 10 July Hi-Tech in Japan  
Experience of Jim and Nataya
- 17 June Red beard (first half)
- 24 June Red Beard (second half)

# JICA TRAINING PARTICIPANTS FILM ORIENTATION PROGRAM

PLACE: AUDIO VISUAL ROOM

TIME: 2 p.m., Wednesday

DATE	PROGRAM
04 September	Agricultural Cooperatives and farm life
09 September	Africa in Japan
18 September	Women of Modern Japan
25 September	Red Beard (first half)
02 October	Red Beard (second half)
09 October	Geography and Industry
16 October	Quality control and QC circle Primary and secondary education
23 October	Aa Nomugi tooge (feature film)
30 October	Office Automation Ikebana: flower arrangement
06 November	Small scale urban industry
13 November	Democracy in Action
20 November	White collar worker

## WHY DO JAPANESE SAY "I AM SORRY." VERY OFTEN?

Assuming one's responsibility and blaming oneself is taken as a virtue among the Japanese people. When there is a problem, people do not criticize or attack each other but try to put the blame on themselves. Someone who gives many excuses is seen avoiding his responsibility and considered unreliable and ungentlemanly. Even when one is not really to blame, one may say "I am sorry." to work out the trouble peacefully avoiding unnecessary frictions. When one assumes responsibility for some mistakes, others are not supposed to accuse the person unless the matter is very serious. Among the Japanese people, Sumimasen is not a confession of one's guilt but an expression that leads to a peaceful and friendly solution.

Japanese way of approach is to be considerate of people's feelings. Accusation against others should be the last resort. In some cultures people assert one's own interests and reach a conclusion. But in Japan, you are not expected to voice your interests aggressively. aggressiveness and strong self-assertion are not very welcome.

FINAL EXAM FOR BEGINNERS' 1

1. Encircle the most correct and suitable words and phrases. (2 × 10)

- A. こどもはおさを { A. のんでもいいです。 }  
 B. のんではいけません。 }
- B. おとなはたばこを { A. すってはいけません。 }  
 B. すってもいいです。 }
- C. あたまがいたいとき、 { A. しごとをやすんだ } ほうがいいです。  
 B. しごとをした }
- D. みちがわからないとき、 { A. こうばんにいった } ほうがいいです。  
 B. ごはんをたべた }
- E. ごはんをたべるとき、 { A. さようなら } といいます。  
 B. いただきます }
- F. へやにはいるときやかえるとき、 { A. どうぞよろしく } といいます。  
 B. しつれいします }
- G. ほんやに { A. にく } をかいにいきます。  
 B. ほん }
- H. にほんのきせつはいま { A. はる } です。  
 B. なつ }  
 C. あき }  
 D. ふゆ }
- I. にほんのうちのなかで くつを { A. はきます }。  
 B. ぬぎます }
- J. けにやのじんこうは { A. いちおくにん } ぐらいです。  
 B. せんきゅうひゃくまんにん }  
 C. ごせんまんにん }

2. Encircle the most proper words in the parenthesis. (1 × 10)

- A. いま このへやはあついです。まどを { あけて、しめて、あける、あけない } ください。
- B. たけしさんは いま でんわを { かける、かけて、かけた } います。
- C. きょうはちようびです。たかださんは、だいがくに { きます、こない、くる、きて } とおもいます。
- D. そのきかいはあぶないです。そのきかいを { つかって、つかわない、つかった } ほうがいいです。
- E. ソジョロゲさんは らいげつ にほんに { 行って、いく、いった } よていです。

F. けさ ごはんをたべませんでした。ごはんが{たべて、たべたい、たべた}です。

G. にほんごを{はなします、はなす、はなして}ことは たのしいです。

H. たくさん たばこを{すって、すった、すわない}ほうがいいです。

I. ひこうきに{のりました、のった、のって}ことがあります。

3. Choose and write the most suitable responses. (2×5)

A: おめでとうございます。

1. B: ( )

A: はじめまして。

2. B: ( )

A: にほんごがじょうずですね。

3. B: ( )

A: ありがとうございます。

4. B: ( )

A: えきまでいっしょにいていただけますか。

5. B: ( )

- |   |                      |
|---|----------------------|
| } | (あ) さようなら            |
|   | (い) いいえ そんなことはありません。 |
|   | (う) ええ いっしょにいきましょう。  |
|   | (え) どうど よろしく。        |
|   | (お) おかげさまで           |
|   | (か) いいえ どういたしまして     |

4. Fill in the blanks the most suitable adjectives in the parenthesis. (2×5)

A. ことしまだこのへやをそうじしません。だからこのへやは( )です。

B. そのじどうしゃはとてもはやいです。だから( )ではありません。

C. たけしさんはえいががきらいです。えいがは( )とおもっています。

D. とうきょうはにほんでいちばん( )なまちです。

E. えいごのせんせいほこわくありません。えいごのせんせいは( )です。

(あ) ながい (い) つまらない (う) あんぜん (え) あぶない

(お) にぎやか (か) げんき (き) やさしい (く) きたない

5. Fill in blanks with the expressions of time. (1×10)

おととい \_\_\_\_\_ きょう \_\_\_\_\_

せんしゅう \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ らいげつ  
\_\_\_\_\_ ことし \_\_\_\_\_  
あさ \_\_\_\_\_ ばん

6. Fill in the blanks with the most proper question words. (2 × 5)

Q: あれは ( ) ですか。

A: あれはあたらしいひこうきです。

Q: にほんに ( ) きましたか。

A: ことしの9がつにきました。

Q: ケニアは ( ) ところですか。

A: ケニアはとてもいいところです。

Q: それは ( ) じしょですか。

A: これはあいださんのじしょです。

Q: こちらは ( ) ですか。

A: ははです。

{いつ、どこ、なん、だれの、どう、どなた、どんな}

7. Answer the following questions. (2 × 10)

A. ゆうべなんじにねましたか。

B. あさおきてなにをしますか。

C. ごきょうだいはなんにんですか。

D. おとうさんはおげんきですか。

E. きょうはなんようびですか。

F. しごとはどうですか。

G. にほんごをどうおもいますか。

H. ケニアとにほんどどちらのほうがおおきいですか。

I. はしをつかうことができますか。

J. このじどうしゃはいくらですか。→ (¥65,000)

8. じこしょうかいをしてください。(10)

Introduce yourself. Write as many sentences as you can.

## THE JAPANESE LANGUAGE COURSE AT JKCAT FOR JICA TRAINEES

### A. The purposes of the language course

1. To enable the participants to speak the language fluently enough to lead the daily life in Japan without difficulty.
2. To improve the adaptability of the participants by giving information on Japan and her culture.
3. To enable the participants to study their specific fields through the Japanese language.

### B. The organization of the language course

1. The language course at JKCAT consists of the language class and the general orientation program into Japan.
2. The language class is divided into the first 60 periods of "Beginners'1" and the second 60 periods of "Beginners'2".
3. The general orientation program into Japan continues for 24 periods with 1 period every week.
4. In case a participant does not progress, he/she does not attend the sufficient number of class, the language need for a particular participant is high, or his/her interest in the language is exceptionally keen, the number of class may be increased.

### C. The advancement

1. At the end of "Beginners' 1" an examination is held. 50 points is the minimum requirement for a participant to advance to "Beginners'2". 75% of attendance is the prerequisite for the examination.
2. At the end of "Beginners' 2" the final examination is conducted. 50 percent is required for passing. 75% of attendance is also the prerequisite for the examination.

**D. The Completion and Departure**

- A. Upon completion of "Beginners' 2" JICA training participants leave for Japan.**
- B. Participants who have finished "Beginners' 1" may depart for Japan on condition that all the arrangements and procedures are completed. It is because the language course in Japan is taken into consideration.**
- C. For trainees who are to stay in Japan for less than 6 months, only "Beginners' 1" is required.**



## 1. その他

1. JKCATにおける福利厚生施設については、エバリュエーション・チーム訪問後、第5学生寮を除き特段の進歩がみられなかった。JKCATのスタッフのスタビリティや優秀な学生の確保を考えた場合、生活環境としての魅力的な大学づくりは重要な要件の1つともなっており、今後、総合的な観点からの検討が必要であろう。例えば、必要な生活物資を扱う売店の設置、クラブ活動のための予算や設備等の充実、等を手はじめとして、将来的には、エジャートン農科大学にみられるような幼稚園、小学校の設置等も考えられる。
2. 大学の管理運営体制については、ほぼ完成されたものとなっており、今後の問題としては、所掌業務の適正化と責任の明確化があげられる。事務組織の他に、学内の横断的な組織としての各種委員会も整備されてきており、この中には、図書館委員会、研究・出版委員会、農場委員会、入試選考委員会等がある。
3. 最後に、JKCATの学則ともいべきアカデミック・ポリシーについては、その内容として① イントロダクション ② 入学規程 ③ 教育活動への参加義務 ④ 履修評価 ⑤ 追試 ⑥ 警告 ⑦ 退学 ⑧ 試験の実施 ⑨ 履修記録 ⑩ 本ポリシーの説明者 ⑪ 本ポリシーの改訂 の11項目があげられている。今後の検討としては、このアカデミック・ポリシーに修業年限、学年、学期及び休業日に関する事項、部科及び課程の組織に関する事項、収容定員及び教員組織に関する事項等を入れこみ、これらに明確な根拠を持たせることが考えられよう。(添付)→アカデミック・ポリシー

添付 JKCAT アカデミックポリシー

**JOMO KENYATTA COLLEGE**  
**OF**  
**AGRICULTURE AND TECHNOLOGY**

**JKCAT ACADEMIC**  
**POLICY**

**ISSUED BY JKCAT ACADEMIC BOARD**

**JULY 1984**

JKCAT ACADEMIC POLICY

<u>CONTENTS:</u>	<u>PAGE</u>
1. INTRODUCTION	2
2. ADMISSION OF STUDENTS	2
3. 2.1. APPLICATION FOR ADMISSION	2
4. 2.2. MINIMUM REQUIREMENTS	2
5. 2.3. SELECTION	3
6. 2.4. REGISTRATION PROCEDURE	3
2.5. CHANGE OF COURSE	3
2.6. REPLACEMENT OF STUDENTS	3
3. ATTENDANCE OF ACADEMIC ACTIVITIES	3
4. ASSESSMENT	3
4.1. TERMINAL ASSESSMENT	3
4.2. ANNUAL EXAMINATIONS	4
4.2.1. FACULTY OF AGRICULTURE	4
4.2.2. FACULTY OF ENGINEERING	4
4.3. PROMOTION FROM STAGE TO STAGE	4
4.4. GRADING	4
5. SUPPLEMENTARY EXAMINATIONS	4
6. ACADEMIC WARNING	5
7. DISCONTINUATION ON ACADEMIC GROUNDS	5
8. HANDLING OF EXAMINATIONS	5
9. ACADEMIC RECORDS AND DOCUMENTS	6
10. INTERPRETATION OF THE ACADEMIC POLICY	6
11. AMMENDMENTS TO THE ACADEMIC POLICY	6

## 1. INTRODUCTION

It is desirable for every institution of higher learning to have an academic policy to guide both the students and staff in the implementation of the institution's academic programmes. Jomo Kenyatta College of Agriculture and Technology shall have an Academic Policy which shall be:-

- i) Clearly spelled out by the College authorities
- ii) Consistent with the overall policies and objectives of the College.
- iii) Consistent with the rules of natural justice and fairness.
- iv) Published and communicated to all members of the College who are affected by it especially the student community.
- v) Flexible and adaptable to change as the need arises.

## 2. ADMISSION OF STUDENTS

### 2.1. APPLICATION FOR ADMISSION

Advertisement for courses will appear in the local press.

Application for admission shall be made on a prescribed form which will be published in the local newspapers, or which may be obtained from the College, or on a copy of such a form.

The decision on the acceptance of students for the courses rests with the Principal of the College.

### 2.2. MINIMUM REQUIREMENTS

The minimum entry requirements for all ordinary diploma and Technician Part I courses are K.C.E. second division (or equivalent) with credits in: Mathematics, English Language, Physical Science or Physics and Chemistry, Biology (Agriculture Course)

For entry to Technician Part II: Passes in all subjects at Part I of the relevant course or an approved equivalent qualification.

For entry to Part III: Passes in all subjects at Part II of the relevant course or an approved equivalent qualification

2.3. SELECTION

Selection of candidates will be made by the sponsors in close collaboration with the College.

2.4. REGISTRATION PROCEDURE

I) On arrival the candidates will report to the registration venue for identification and the verification of documents. This will be performed by Heads of Department, who will thereafter administer the formal registration.

II) The new student will then proceed to the Finance Office to pay prescribed fees and other College dues.

2.5. CHANGE OF COURSE

Changes of course will not normally be entertained, and students are expected to continue with their respective courses of study.

2.6. REPLACEMENT OF STUDENTS

Selected candidates will be expected to report to the College promptly by the date specified in their invitation letters. Candidates failing to turn up on time will be replaced immediately.

3. ATTENDANCE OF ACADEMIC ACTIVITIES

Attendance of academic activities such as lectures, practicals, scheduled visits, field attachment etc. is compulsory and will form part of the students' overall assessment. Failure to attend such activities will lead to appropriate disciplinary action which may also be reported to the sponsor.

4. ASSESSMENT

4.1. TERMINAL ASSESSMENT

Terminal assessment of students will be done by subject Lecturers. The scores for performance and for attendance will be accurately entered in the student's Record Card, which will be kept by the Head of Department until the student leaves the College.

## 4.2. ANNUAL EXAMINATIONS

### 4.2.1. FACULTY OF AGRICULTURE

In the Faculty of Agriculture, students will sit an annual internal examination at the end of their first and second years at the College. The final examination for the award of the Ordinary Diploma will be administered by the Kenya National Examinations Council (K.N.E.C.)

For the award of the diploma, course-work is taken into account by the K.N.E.C.

### 4.2.2. FACULTY OF ENGINEERING

In the Faculty of Engineering, all parts of the examination are conducted by K.N.E.C.

## 4.3. PROMOTION FROM STAGE TO STAGE

In both Faculties, no students will be allowed to proceed from one stage to the next unless they have passed in all the subjects examined.

## 4.4. GRADING

Internal examination results will be categorized as follows:-

- i) Distinction
- ii) Credit
- iii) Pass
- iv) Referred

## 5. SUPPLEMENTARY EXAMINATIONS

A candidate who fails in one or two subjects in an annual examination will be given one more chance to pass such subjects. Supplementary examinations will be taken during the first week of the academic year. A candidate who passes in all the subjects taken at supplementary examinations will proceed to the next stage. A candidate who fails in any subject at supplementary examinations will repeat all his/her subjects for a year.

candidates who miss annual internal examinations will not be allowed to take supplementary examinations without permission from the Academic Board.

6. ACADEMIC WARNING

Written academic warning will be given by the Dean of Faculty for the following reasons:-

- i) Poor attendance.
- ii) Academic Indiscipline such as failure to submit assignments and refusal to participate in class activities.
- iii) Poor academic performance.

7. DISCONTINUATION ON ACADEMIC GROUNDS

A candidate who fails annual internal examinations will be discontinued on academic grounds. For external examinations, K.N.E.C. regulations will apply.

8. HANDLING OF EXAMINATIONS

The Academic Board will constitute an Examination Board for the College. Each Chairman of Examination Board shall perform the following function.

In respect of Internal examinations:-

- i) Co-ordinate the setting and moderation of examination papers.
- ii) Collect drafts of examination papers for typing and ensure that the typing is done, the papers proof-read and duplicate according to the number required.
- iii) Store examination papers safely and produce them at the appropriate time.
- iv) Co-ordinate the marking and processing of the results. The College will be free to invite other experts from other Institutions to participate in the setting, moderation, and marking of Internal examinations. Candidates found using dishonest methods in doing their examinations may be excluded from such examinations.

Each Faculty shall have an Examination Board consisting of the Dean, the Heads of Department and three other lecturers from the Faculty.

The Examination Board shall discuss the examination results before presenting them to the Academic Board and recommending the appropriate action.

The Academic Board will meet to discuss examinations results, take any appropriate action and then release the results through the Dean of Faculty.

Examination results will be prominently displayed on Faculty and Departmental notice-boards.

9. ACADEMIC RECORDS AND DOCUMENTS

Student record cards will be maintained by the Head of Department and be passed to the Registrar as soon as the student leave the College.

Internal examinations scripts will be maintained in the departments for six months after the student has left the College.

The College will issue a Leaving Certificate to any student leaving the College, on request.

Academic transcripts may be issued at the discretion of the College's authorities. Such transcripts will normally be issued under cover.

10. INTERPRETATION OF THE ACADEMIC POLICY

On behalf of the Academic Board, the Principal will settle any dispute arising out of the interpretation of this Academic Policy.

11. AMMENDMENTS TO THE ACADEMIC POLICY

Changes and ammendments to this Academic PolICY may be recommended by a meeting of the Academic Board. No such changes/ammendments shall be effected without authorization by the Board of Governors.



### 第3章 カウンターパートの育成

1. カウンターパートの意義
2. カウンターパートの配置
3. カウンターパートに対する技術移転達成状況
4. 問題点及び対応策



## 第3章 カウンターパートの育成

### 1. カウンターパートの意義

本プロジェクトのカウンターパートはジョモケニヤッタ農工大の教員又はその候補者であり、日本側の技術指導の対象となる要員である。同時に同大学組織の根幹をなす教員であり、プロジェクト協力終了後は全ての教育を行う中心的存在である。

### 2. カウンターパートの配置

現在までのところ農学部32名、工学部66名、計98名のC/Pが配置されている。この内農学部農業工学科と工学部土木建築学科においてC/Pの不足が解消されず、いまだに日本専門家がC/P代わり学生の授業に追われている。またそのため、本来行なわれるべきC/Pへの技術移転が順調に行なわれていない状況にある。

ケニア側ではこれに対しTSC (Teachers Service Commission) を通じて、不足する分野の教官の公募を行なっているが、同分野では国内の技術者の不足と民間部門からのニーズが高いことなどから採用も決して容易ではない。

しかしながら、1988年の協力終了に向けてC/Pの採用は極めて重要である。

### 3. カウンターパートに対する技術移転達成状況

#### (1) 派遣専門家・JOCV隊員による技術移転の状況 (学内技術移転の状況)

C/Pの配置が順調に進みケ側教官による授業担当率も高い農学部園芸、食品加工、工学部電気電子学科ではJICA・文部省への研修員留学生も帰国後充実しつつあり、プロジェクト終了時にはケ側教官による全ての授業負担と教官の研究活動が行なわれる段階に達するものと見込まれている。

一方C/P配置が遅れている農業工学・工学部土木建築学科では、ケ側教官の不足から専門家の授業負担が続いており本来の技術移転への移行はC/Pの配置(日本からの帰国と新規の教官の採用)が予定通り行なわれてから順次行なわれていくことになる。

#### (2) JICA研修・文部省留学(学外技術移転)の状況

1980年4月締結のR/D計画数(JICA研修員受入技術研修60名、文部省留学生受入10名)に対する受入実績は9月1日現在JICA(技術研修40名、視察研修15名)計55名と文部省7名で共に計画数に達していない。

JICA研修帰国者の内既に8名は帰国後他の民間企業へ転職し又はTSCからの職務停止処分を受けている。(これらの者は昭和57年度までの米日研修員で本学での教鞭の経験がなく、日本でも研修態度に問題があった。)

また、JICA研修受入れ実績の内、R/D計画数を越えて受入れがされている学科とR/D

計画数の半分に停まっている学科とがありアンバランスが生じている。後者についてはC/Pが不足していることによる。

研修の成果については帰国直後は意欲も高まり研修効果が大い反面、時間の経過とともに意欲がうすれる者もあり担当専門家の強い指導が必要といえる。

### C/P配置状況

#### 農学部 (32)

園芸学科 (11) V.W.Ngumi<sup>60</sup>, C.N.Ritho, E.E.Omutere<sup>57</sup>, A.O.Watako<sup>58</sup>,  
E.M.Gichuki<sup>55</sup>, W.N.Gachathi, E.M.Kahangi<sup>58</sup>, D.O.Sigunga<sup>55</sup>,  
H.Murage, K.Kirimati, (P.N.Kingori)<sup>57 MOE</sup>

退職 (1) M.G.Mbugua(interdict)<sup>57</sup>

農業工学科 (10) Irungu, Okwach, (Makokha)<sup>59 MOE</sup>, Mati, Mwaka, Owaka<sup>59</sup>,  
Mugucia, Akenga<sup>57</sup>, Makanga<sup>58</sup>, Nwangi,

退職 (1) E.N.Kamotho<sup>57</sup>

食品加工 (11) (S.Gichurn)<sup>59</sup>, T.Wandati, J.Mungai, S.Moturi<sup>56 MOE</sup>,  
J.M.Kenji<sup>55</sup>, K.Kiyukia<sup>57</sup>, P.N.Kariuki<sup>58</sup>, M.Kinyua,  
L.Mwajuma<sup>60</sup>, G.Walyaro<sup>59</sup>, (G.Omolo)<sup>59 MOE</sup>

#### 工学部 (66)

建築・土木学科 (18) A.Abogi<sup>57</sup>, J.Kimani, J.Kameru, Z.Mwatelah, D.Waweru<sup>58</sup>,  
P.Kamau<sup>55</sup>, (M.Thumbi)<sup>60</sup>, M.Ibrahim<sup>58</sup>, N.Wambugu,  
S.Karuma, E.Wanyaga, A.Ofera, S.Simba<sup>60</sup>,  
(G.Wanyona)<sup>59 MOE</sup>, H.Mwaura<sup>60</sup>, P.Wanderi, S.Njoroge<sup>57</sup>, D.Munyi

退職 (3) A.Wanyaika<sup>55</sup>, S.N.Mugera<sup>57</sup>, E.D.Kamara<sup>57</sup>

機械工学科 (28) S.Wanjii, R.Karue, S.Wanyoike, G.Wanjau<sup>60</sup>, T.Magira,  
H.Mwai, N.Boro, G.Kungu, G.Mwangi, J.Mutheke,  
J.Gachaki, S.Kamau, K.Nyaga, J.Nganga, G.Toigu<sup>58</sup>,  
J.Kabira<sup>60</sup>, A.Odawa<sup>58</sup>, C.Ashford<sup>57</sup>, I.Wainaina, S.Mugo,  
I.Inoti<sup>56 MOE</sup>, M.Oduori<sup>57</sup>, S.Muiru<sup>57</sup>, D.Mukundi, S.Maina<sup>58</sup>,  
A.Juma<sup>58</sup>, P.Kiarie, (J.Kigia)<sup>59</sup>

電気電子工学科 (20) G.M.Gathitu, F.Nalwa, J.M.Mwangi<sup>58</sup>, (J.O.Konyango)<sup>59</sup>,  
M.F.K.Kisingu, F.Mungai, P.M.Ndunda, (J.Owino)<sup>59</sup>,  
J.M.Kabira, A.N.Manyara, J.N.Nyagah<sup>59</sup>, E.W.Mwangi<sup>58</sup>,  
D.O.Konditi, P.K.Kingara, (C.Wamaruwa)<sup>60</sup>, Awoche,  
(S.Musyoki)<sup>57 MOE</sup>, E.M.Mwaniki<sup>58</sup>, E.N.Ndungu<sup>58</sup>, C.O.Orwa

退職 (3) C.W.Nyukuri<sup>55</sup>, J.P.Mburu<sup>57</sup>, S.O.Kaloo<sup>57</sup>

計 98名

(退職者 8名)

技術移転達成状況表

農 学 部	園 芸 学 科	農 業 工 学 科	食 品 加 工 学 科
1. C/Pの充足度 (配置数)	ほぼ充足(10名) 土壌肥科学担当教官及び ラボ・テクニシヤンの採 用が急務。	不充足(10名) 農業土木(Survey & Draw- ing 担当1名)、農業機械 (Post Harvest Technology & Farm Structure担当1名、 Farm Machinery 担当1名) の教官の採用が必要。	ほぼ充足(11名)
2. ケニア側スタッフの 授業担当率	78.1% 残る21.9%はプロジェク ト完了時に解消する予定。 ケ側教官が充実し、日本 人専門家の授業負担は軽 減しつつある。	農業土木で今学期始めてケ側 講師が授業担当を開始。 87年に修士・博士各1名が留 学をすれば88年4月以降も専 門家・隊員の計3名の派遣が 必要。しかし日本人の負担は 軽減していく予定。	67%(1学年担当分は 100%) 現状ほぼ日本人の負担は 解消されている。
3. 学内技術移転の今後 (1) 機器操作能力の移転  (2) 研究活動  (3) 授業担当	1学期に2・3機材の使 用方法の指導を行う予定。 また、現場に即したマニ ュアル作製を行ってゆく 計画。  延長期間中に研究する素 地をつくる。 ①各教官は研究しなければ ならないというムード 作りを行う。(研究活動 の奨励) ②セミナーの充実をはか り、研究発表の場をつく る。 ①隊員・専門家が個別に 計画を立てる。 ②ケ側と協議し、テーマ を設定した小プロジェクト を立案しケ側の教官に 対し日本人が主導、その	共同研究の手法で適性技術を 中心にケニアの農業の場に適 した技術を展開し自主的な研 究が発展出来るようにする。 ①農機分野：農業動力性能試 験、小農具試作開発など。 ②農土分野：86年3月までに 目標を設定しその後実施する。  実験・実習・演習のマニユ アル作りを通して技術移転を促 進する。 ①農業土木関係C/Pのペア授 業の促進。 ②サーベイング、ドローイン	不十分な操作能力を高め、 次の機器の操作を習熟さ せる。 食品微生物用機器、食品 化学用機器、カン詰用機 器、牛乳加工用機器、畜 産加工機器、製パン機、 ソサイ果実加工用機器  ①シラバス内の実験実習 が独力で出来るよう指 導する。 ②教材の共同執筆をはか る。 ③乳製品：果実・ソサイ

	過程で技術を移転する。 ③ベア授業の実施	グのベア授業により現地技術 移転を促進	加工、パン、肉製品の4分 野で継続生産可能にする。
4. 学外技術移転の状況	(60年9月1日現在)		
(1) RD計画数(JICA /文部省)	6人/2人	8/1	7/2
(2) 実績数(JICA/文 部省)	6(内1名は9月16日派 遣予定)人/1人	4/1	6(内1名は9月30日派 遣予定)/2
(3) 帰国後の離職(JI CA/文部省)	1(57年度受入、職務停 止処分中)人/0人	1(57年度受入れ、早期帰国 した者)/0	0/0
(4) 今後の派遣希望数人	60年度 1/1 61年度 1/0 62年度 1/0 計 3/1	0/0 2/0 2/2 4/2	0/0 1/1 1/0 2/1

工学部 土木建築学科

	建 築 コ ー ス	建 設 材 料 コ ー ス	灌 漑 コ ー ス
1. C/Pの 充足度(配置数) 全体で18名	ケ側教官不足は深刻。 建築設計製図担当と測量 担当の教官各1、テクニ シャン各々の採用を要す。	ケ側担当教官1名の新規採用 が必要。 2名の新規採用を要す。	ケ側担当教官3名の新規 採用が必要。また、テク ニシャン2名の採用が必 要。
2. ケ側スタッフの授業 担当率	教官不足のため低い。 技術移転の成否は今後の ケ側教官の充足による。	教官不足のため低い。	98% 88年4月までに残りを解 消する予定。
3. 学校技術移転 (1) 機器操作能力  (2) 研究活動  (3) 授業担当	不足しているテクニシャ ンの採用と、日本人の講 義負担が軽減された時点 で指導が可能となる。  ①ベア授業はケニア人教 官の充足による。 ②設計製図 88年4月迄に技術移転 を完了する予定。 ③測量・実習担当 ケ側教官の新規採用に よる。 ④教材作成 Part IIIの教材作成はケ 側教官の採用による。	操作知識の欠如により故障が 発生。今後の機器操作の習熟 が必要。  主要3課目(コンクリート工 学、土質基礎工学、建設材料) の内コンクリート工学と建設 材料についてはケ側講師によ る授業担当が可能。	

4. 学校技術移転状況	
(1) R/D計画数(JICA / 文部省)	16 / 2
(2) 実績数 (JICA / 文部省)	11 (内1名は9月30日派遣予定) / 1
(3) 帰国後の離職 (JICA / 文部省)	3 / 0
(4) 今後の派遣希望数人	60年度 0 / 1 61年度 62年度 計 0 / 1

工学部 機械工学科

1. C/Pの充足度 (配置数)	やや不十分。(28名) ケ側教官6名追加の要あり。
2. ケ側スタッフの授業担当率	83% 残る17%はプロジェクト完了時前解消し、完了時には日本側は技術移転に専念する。
3. 学内技術移転の今後 (1) 機器操作能力 (2) 授業担当	取扱い及びメンテナンス技術は不十分であり、引き継ぎその習熟完成につとめる。  ①実習指導要領に基づくテクニシャンの指導 (農機コース)  ②「建設機械」の講義内容 (機械の種類、技術レベル) の充実をはかるための指導 (建機コース)
4. 学外技術移転 (1) R/D計画数 (JICA / 文部省) (2) 実績数 (JICA / 文部省) (3) 帰国後の離職者数 (JICA / 文部省) (4) 今後の派遣希望数人 60年度 61年度 62年度	60年9月1日現在  9 / 1  11 / 1  0 / 0  } 数名のJICAは文部省研修

工学部電気電子学科

	電 気 コ ー ス	電 子 コ ー ス
1. C/Pの 充足度 (配置数)	充足 (11名)	充足 (8名)
2. ケ側スタッフの授業 担当率	69% 残り31%はプロジェクト完了時に解消 可能	約70% 残り30%はプロジェクト完了時に解消可能
3. 学内技術移転の今後 (1) 研究活動 (2) 授業担当 (3) 機器操作能力	太陽エネルギー (主として太陽光発電) の共同研究の実施 ①複数人とのペア教育システムの採用 ②専門グループ教育システムの採用  マニュアルの英訳とテクニシャン、 レクチャラーの教育をはかり機材の活 用と維持管理を習熟させる。	ラジオTV用教材を学内で開発する。  帰国研修員を核として専門分野別グルー プ制を基本とする。日本人スタッフは表面に 出ず絶えず日常の接触を通じ影響を与えて いく。 英文マニュアルの入手又は作成を行う。ケ 側テクニシャンのトレーニングは充分なさ れているが、更に万全を期す為引き続き指 導する。
4. 学外技術移転 (1) RD計画数 (JICA / 文部省) (2) 実績数 (JICA / 文部省) (3) 帰国後の離職者数 (JICA / 文部省) (4) 今後の派遣希望数人 61年度 62年度 計	14 / 2 12 / 1 3 / 0 6 / 1 4 / 0 10 / 2	

4. 問題点及び対応策

(1) C/P配置の遅れている部署については積極的に教官を採用するべくケニア側の努力が求められる。

(2) 教官採用、C/P昇格は全てTSCが所轄している。特に昇格は在職の実績よりも学歴が重視される。従って現在のC/Pの能力と資格のひき上げには現教員の修士課程への留学の途を開く事が不可欠である。

わが国の文部省留学への要望は強いがケニアへの割当枠は2名と枠の拡大は困難であることから、日本以外の第3国への留学生派遣の途を開くことが必要である。

(3) JICA研修帰国後8名が転職又は離職している。技術者のリクルートの困難な分野にお



ける帰国研修員の転職はプロジェクトの運営、大学組織の拡充の上で支障をきたすことから、研修・留学生への一定期間の服務義務をケニア側で検討されねばならない。

- (4) 日本での研修はC/Pの職務を空席にし専門家等への負担を伴う。プロジェクトの終了までに技術移転を達成する為、C/Pに対する研修内容を吟味し密度の濃い研修を実施する様心がける必要がある。



## 第4章 青年海外協力隊

1. 協力隊員の業務
2. 協力隊員の派遣計画
3. 協力隊員の生活状況



## 第4章 青年海外協力隊

本プロジェクトには過去に延べ33名の協力隊員が派遣されており、専門家と協力隊員の共同プロジェクトとしては、数少ない成功例の一つである。

隊員はケニア側に専門家と区別なく認識され、業務に於いても専門家と同様に独立した担当科目が与えられ、授業・実験・実習に当たることが期待されている。実際には、経験の少ない隊員に対して、専門家よりの技術的アドバイスが適宜行われて調整され、ほとんどの隊員が充実した協力活動を展開し協力効果を上げている。

隊員・専門家を含む人間関係も円満で、特に指摘される生活上の大きな問題もない。

### 1. 協力隊員の業務

#### (1) 隊員の位置づけ

本プロジェクトには、農学部10名、工学部に6名および日本語隊員の合計17名の隊員が現在派遣されている。配属先であるジョモ・ケニヤック農工科大学（JKCAT）からは、18名の専門家と同様、全隊員がJICAプロジェクト・チームの一員として位置づけられている。実際には二学部の6学科に配属された隊員たちは、それぞれの担当する科目の講師という立場で業務に当たっている。日本語隊員は、日本での研修が確定した者や希望者に対して日本語の授業を行っているが、これについては第2章の9に詳しいので、この章では言及しない。

#### (2) 隊員の業務内容

全隊員がケニア人教員やプロジェクト専門家と同様に授業と実験・実習を受け持ち学生指導に当たっている。実際には、学科ごとの事情、個々の隊員の技術レベルや興味の対象等の違いなどの理由により、教科目の授業を担当している者から、実習中心に活動している隊員とそれぞれ差が生じている。最も忙しい隊員は週当たり20時間近くの授業および実験・実習を受け持っている。60年度1次隊で赴任したばかりの家畜飼育隊員は農場に配属となり、その整備・運営管理および学生の農場実習の指導を主な業務内容とする予定である。

新規および交替隊員の要請は、同一学科内の隊員、ケニア人スタッフ、専門家が協議の上提出されているので、要請背景調査表の内容と赴任後の業務内容に大きな差が出る例は少ない。但し、要請が出された時点から赴任時までの間に、ケニア人スタッフの採用又は離職などの状況により、当初の要請内容以上の科目も担当したり、業務が著しく少ないケースもある。

#### (3) 支援体制・支援経費

日本語隊員を除き、隊員の配属されている学科および農場には1名以上の専門家がおり、

技術的な助言を受けることができる。但し、専門家と隊員の間に形式的な上下関係はなく、担当科目の授業運営等に関しては、各隊員が独自に業務を遂行している。

各学科の運営については、学科長をはじめとするケニア人スタッフ、専門家に隊員も加わり協議がなされた上で実行されている。

プロジェクト・チームの定例会議には、シニア隊員が隊員を代表して参加している。その他適宜開催されるプロジェクト主催の行事や会議には全隊員が召集される。加えて、プロジェクト調整員として派遣されている JICA 職員が隊員報告書の取りまとめ、材料引き取り、隊員宿舍の手配などについて、専門家と同様に支援されている。

支援経費については、プロジェクトとしては原則的には専門家人数分の示達であるが、実際には隊員向けにも使用されていて、隊員支援経費については、内容によって使い分けられている。

学科ごとに割り当てられた大学の予算も他のケニア人教員と同様な手続きで活用可能であるが、事務的な煩雑さ、実行までの遅さなどを理由に隊員が使用することは少ないが、園芸学科では大学の予算を活用している。

#### (4) 協力効果および隊員に対する評価

JKCAT 卒業生の国家試験合格率は全学科に於いて高い水準を保っており、就職先での評判も良好である。学生の技術的向上については、隊員による協力活動が十分に貢献している。

カウンター・パートは特に与えられておらず、ケニア人講師に対する技術移転は専門家により行われている。実験・実習の助手的立場にいる Technician に対する指導が隊員により行われ、彼らの育成に効果を上げている。隊員達は、若いための抵抗を多少は受けるようだが、ケニア人スタッフ、学生ともに、隊員を専門家と特に区別するところはなく、評価も良好である。農学部園芸学科の Technician 1 名が隊員のカウンター・パート研修ワク（協力隊推せん都道府県受入海外技術研修員制度）を利用し、現在神奈川県で研修中である。

## 2. 協力隊員の派遣計画

### (1) 要請と隊員確保の現状

今年度内では、60 年度 2 次隊として工作機械、日本語および果樹栽培の各 1 名が、又三次隊として農業機械 1 名がすでに確保されて派遣の予定である。春募集で満たすことのできなかつた要請は、測量、食用作物の 2 つであり、今後引き続き募集の対象とし早期の派遣が期待されている。

来年度派遣については、農業機械、食肉加工の 2 名が 61 年度 1 次隊派遣として確保されている。61 年度内で任期満了となる測量、土木水理、農業機械、電子工学、電気工学の 6 隊員については、交替隊員の派遣または任期延長が必要とされている。加えて、建設

機械専門家の後任として同職種での隊員派遣が要請される見込みである。

61年度1次隊以降に派遣される隊員については、任期中にこのプロジェクトが終了することになるが、プロジェクト・チームの引き上げと同時に隊員も引き上げということは、協力隊員の派遣システムから言って不可能である。よって派遣に際して、二年間の任期中については、隊員の立場と業務への保障に関して大学当局とケニア人スタッフの十分な理解を得ておく必要がある。

## (2) 募集と選考での留意点

同プロジェクト向け隊員についてはいずれの要請も高い技術レベル、英語力、教授能力が求められており、また国内事情によりこれら業種での応募者が少ないため、隊員確保には困難を伴っている。しかしながら本プロジェクトへの隊員派遣は、必要性および緊急度大であり、協力効果も充分期待できるところ、隊員確保には最大限の努力が求められている。また、現在、過去に派遣された専門家や、当プロジェクトの国内専門委員会のメンバーより応募者の推薦を行って頂くことは、今後の隊員確保を円滑に行う上で有効と思われる。

隊員の選考に当っては、教室型を希望し、協調性の強い者を当プロジェクト向けに選択する必要がある。加えて、ケニア人民衆との接触が少ない配属先であるため、それを協力隊参加の主な動機としている隊員の当プロジェクトへの派遣は避けることが望ましい。

## 3. 協力隊員の生活状況

### (1) 住宅等

全隊員が大学敷地内のスタッフ・ハウスに居住している。

スタッフ・ハウスは当大学の専任講師用のもので、3LDKタイプの間取りで、二人づつの隊員が同居している。

食事は学内のスタッフ用食堂で三食ともとることができるが、自炊をしている隊員もいる。

### (2) 交通事情

隊員は交通手段として単車が貸与されている。大学周辺には町らしいものがない事から隊員は、買物や余暇、事務所訪問等で、ほとんどの隊員はナイロビ市内を訪れている。

Thika Roadは道路の状態が悪く交通状況も悪い。過去にJKCAT派遣隊員を含む2名の隊員がこの道路で死亡事故に合っている事からも交通安全には十分な指導が必要である。

### (3) 余暇等

大学内の福利施設は今だ未整備で、隊員の余暇はもっぱらナイロビ市内訪問や専門家との交流の他、自己研磨のための学習に向けられている。隊員、専門家を含めた大学関係邦人間の人間関係は円滑で特に大きな問題はない。

しかし、JKCAT配属の隊員は他の隊員と異なり、派遣国民衆との交流が少ない状況下

に置かれる。

隊員は協力隊に参加する際、ある程度のイメージをもっている事から、この落差に対し個々の差はあるにしても、赴任当初にとまどいを感じたとしているが、このプロジェクトの重要性を認識する事によって充実した協力活動を展開している。成功裡にあるプロジェクトだけに今後の専門家、協力隊員の共同プロジェクトへの示唆する意味も含めて、この点を踏えていく必要があると思われる。



## 第5章 JKCATをとりまく状況

1. ケニア教育制度に於けるJKCATの位置づけ
2. ケニア高等教育機関に於ける教官の位階と学歴資格の関係
3. 諸外国による類似プロジェクトに対する援助
4. ナイロビ大学紹介——写真



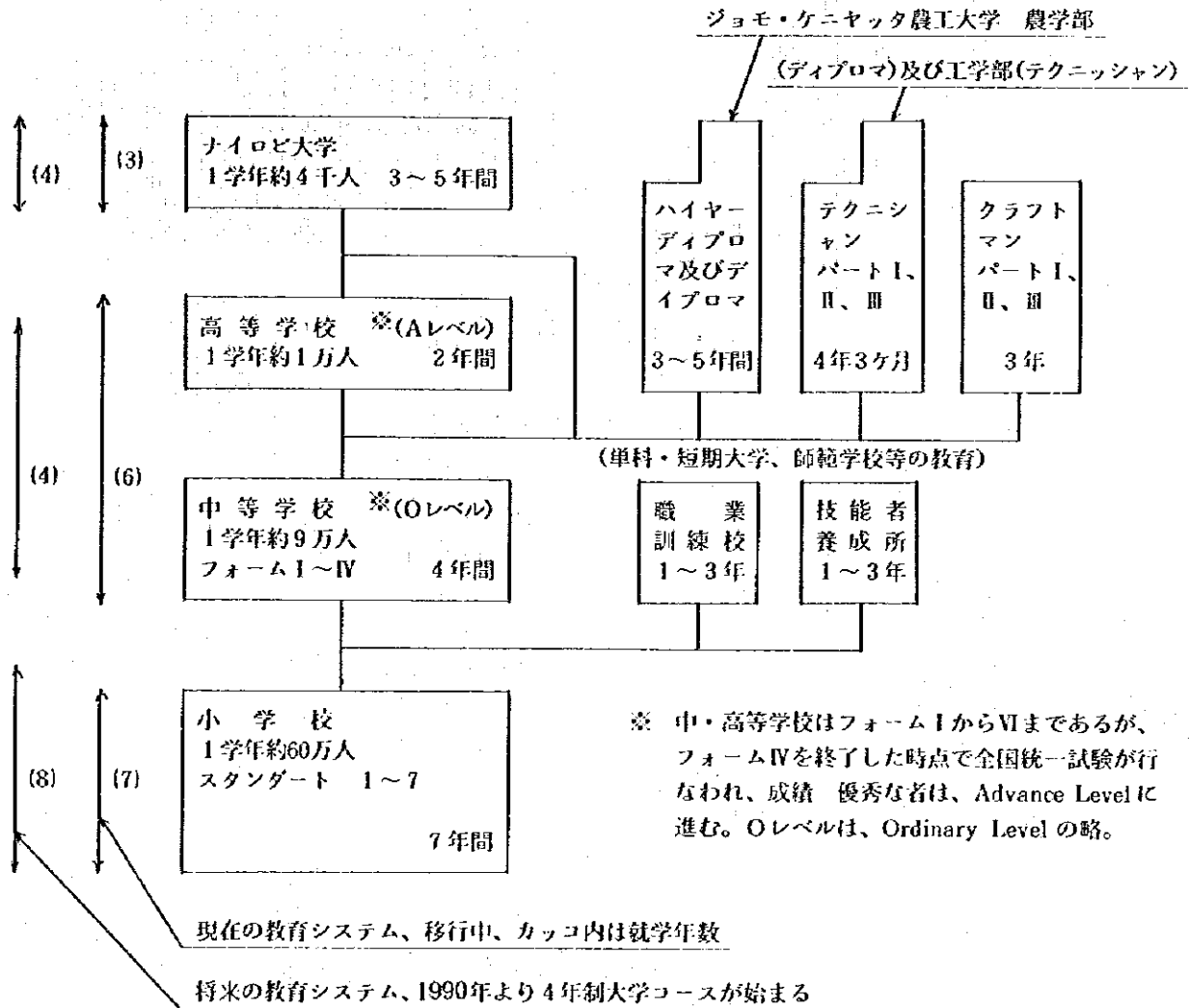
## 第5章 JKCATをとりまく状況

### 1. ケニア教育制度におけるJKCATの位置付け

1. ケニアの教育制度は、1984年から学制改革が進行中であり、それまでの7-4-2-3制から8-4-4制へと移行しつつある。

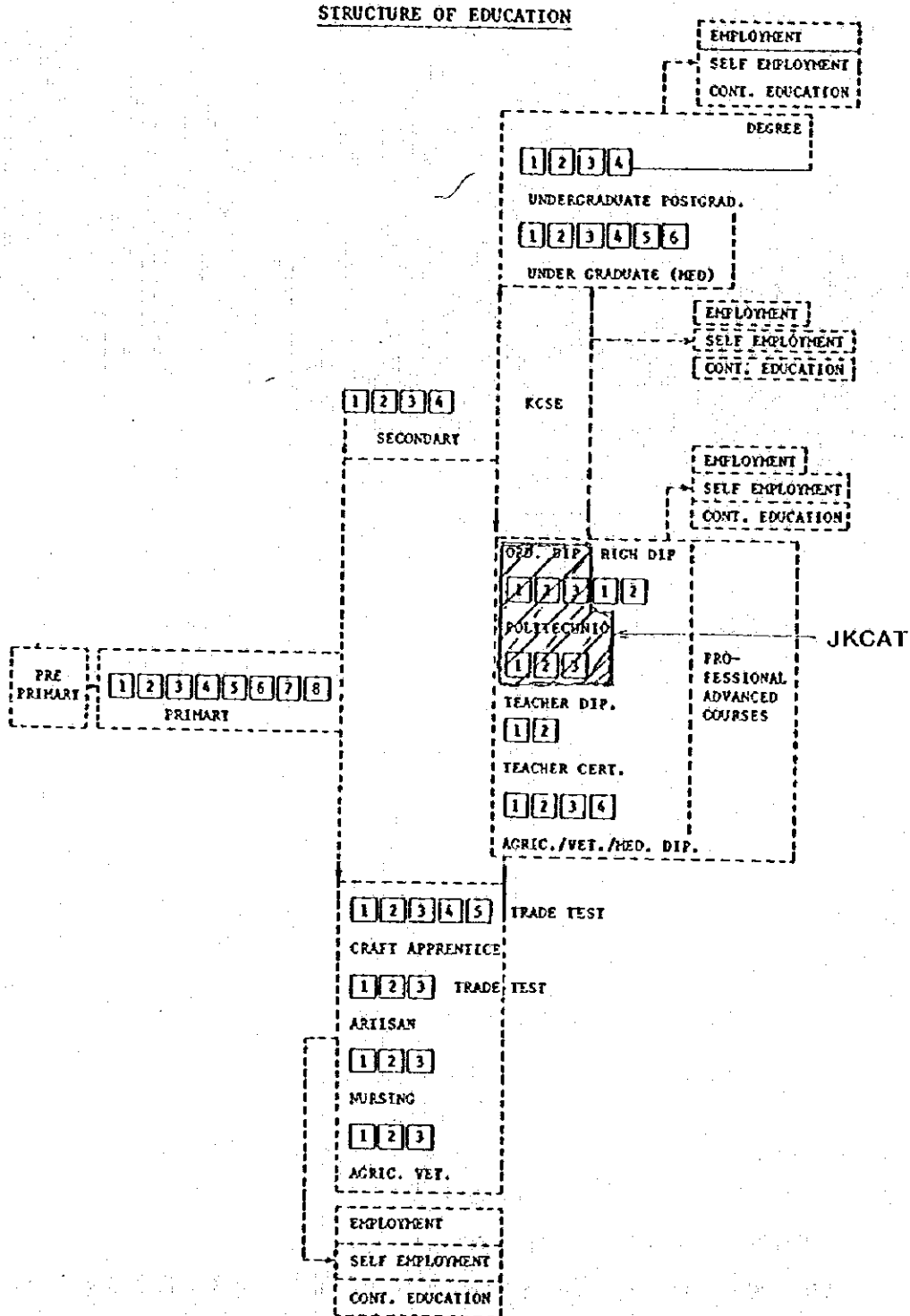
現在の教育制度及びその中におけるJKCATの位置を図示すると次のようになる。

ケニアの教育システム



2. この学制改革のねらいは、1つには旧制度の高等学校が隘路となっており、これを廃止すること、2つには、技術教育の重要性に鑑みコース及びカリキュラムの改訂等により技術教育職業訓練を重視することであった。
3. この結果、現在JKCATには、入学者として上記Oレベル修了者よりもAレベル終了者の方が多く入学している状況にあるが、1990年には、最初の8-4-4における中等教

育終了者 (KCSE : Kenya Certificate of Secondary Education Examination の合格者) が JKCAT の入学者となることとなり、この意味においては JKCAT もナイロビ大学と同様の位置付けになることとなる。この新制度における JKCAT の位置付けを図示すると次のようになる。

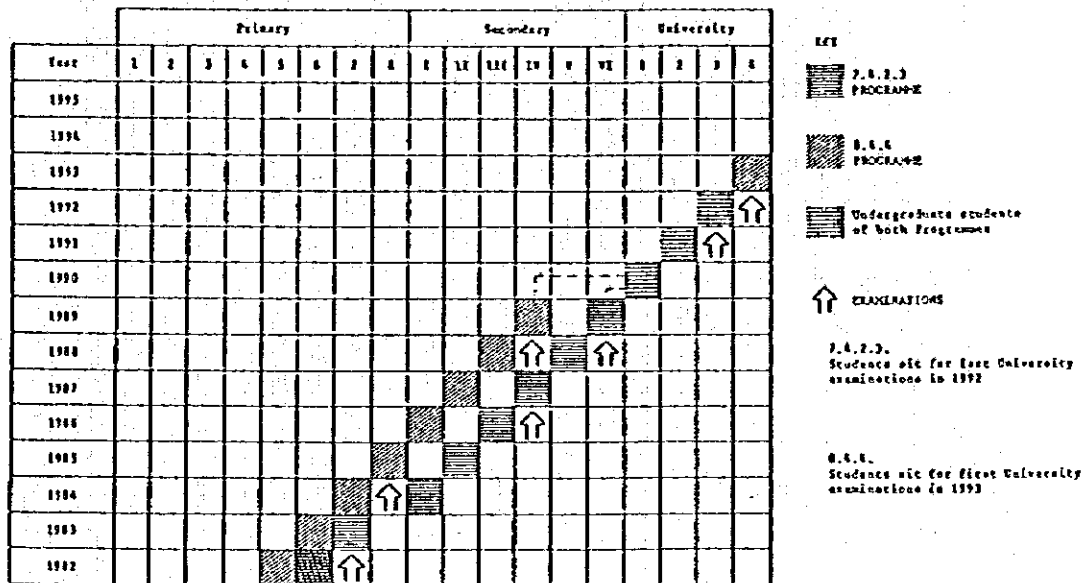


4. また参考として旧制度から新制度への移行プログラムは次のようなものとなっているので添付する。

MINISTRY OF EDUCATION, SCIENCE AND TECHNOLOGY

8-4-4 EDUCATION PROGRAMME

Progress of Pupils/Students Affected by Implementation



5. 最後に、JKCATの新制度における位置付けにかかる問題点を考えたいが、端的にいうと次の2点にまとめられる。

- ① 他の高等教育機関との関係
- ② ①に伴う整備の問題

すなわち、①については、JKCATの手本ともなったエジャートン農科大学及びケニアポリテクを例にとると、エジャートン農科大学では新制度に向け、16コースのうち3～4コース（まだ未定とのことであるが、候補としては、① Agric. Engineering ② Animal Science ③ Horticulture ④ Agric. and Home Economics）に従来の Diploma コースの上に B. Sc コースを創設することとしており、これに向けて既存コースの整理、必要施設の整備等準備が進められている。

またケニアポリテクにおいても Diploma だけではなく Higher Diploma を実施中であり更に B. Sc の検討も進んでいるとのことである。

こうした情勢下では Diploma コースしか有しない JKCAT の評価は、入学者の資格 up にもかかわらず、相対的に低下するものと考えられる。これについて考えなければならぬというのが第1の問題である。

②については、①とある意味では矛盾するのであるが、評価の up のために JKCAT でも少なくとも Higher Diploma 更に B.Sc コースの設置に向け整備を行うことの困難さという問題である。すなわち、開校以来 5 年余りにすぎない JKCAT に早急な全面的 grade-up を望むのは、財政的にも、スタッフ的にも、無理なことである。

今後については、従って、あせらず確実に基礎固めに専念すべきであり、それらが固まり適当な時期が来たら着手するというのが方向であろう。いずれにせよ、長期的展望にたった検討を行う必要があると考えられる。

## 2. ケニア高等教育機関に於ける教官の位階と学歴資格の関係

1. ケニアの高等教育機関における教官の種類は、一般に次のようにまとめられる。

- ① Principal Lecturer
- ② Senior Lecturer
- ③ Lecturer
- ④ Assistant Lecturer
- ⑤ Graduate Teacher

JKCAT の 1983 年度の年報によれば (1984. 3. 5 付)、当時の JKCAT の TSC 定員は 93 名であり、これを上記にあてはめた区分数は① 1 名、② 8 名、③ 19 名、④ 65 名となっている。基本的な教官の資格としては、少なくとも Higher National Diploma 保持者以上であり、これに学位等の程度、経験年数等が基礎的要素となって昇進していくこととなる。

2. また、教官の位階としては、① Principal (学長)、② Vice Principal (副学長)、③ Dean of Faculty (学部長)、④ Head of Department (学科長)、⑤ Section Head (コース長) が挙げられる。ケニアの社会は、資格社会であり、どのレベルの学位を取得しているかがその個人のプロモーションに大きな比重を占めており、例えば JKCAT の TSC による教官募集のペーパー (別添) をみてもそのことがよくわかる。

3. このことに関連して、JKCAT に一番の問題は、JKCAT の設置根拠が単独法令ではなく、Education Act に他の機関と一緒に規定されていることである。これによって、教官スタッフの募集は、JKCAT 単独に行えるのではなく、すべて TSC に任せなければならなくなっている。他の、ナイロビ大学はともかくとして、エジャートン農科大学においても、単独法令を持ち人材の雇用シラバス等を独自に決定できるようになっており、このことにより大学の特色、活力が生みだされていることを考えれば、将来の課題として学制改革後の位置付けとあわせながら検討すべき事柄と考えられる。



TEACHERS SERVICE COMMISSION

COMMISSION VACANCIES



APPLICATIONS are invited from suitably qualified Kenya citizens for the posts of lecturers at Kenya, Mombasa, Eldoret polytechnics and JKCAT in the subjects named below.  
All applications must be made by filling Teachers Service Commission forms for employment (M-APP) Form 1 to reach the Secretary, Teachers Service Commission by January 17, 1985.

**KENYA, MOMBASA AND ELDORET POLYTECHNICS - VACANCIES**

**PRINCIPAL LECTURERS - 13 POSTS**

- Advert No. 117/84 - P.L. in Electronics/Electrical Engineering - three posts
- Advert No. 118/84 - P.L. in Survey and Mapping, Water Eng. Structure - two posts
- Advert No. 119/84 - P.L. in Biology/Chemistry/Physics - one post
- Advert No. 120/84 - P.L. in Food Technology, Earth Science and Animal Technology - one post
- Advert No. 121/84 - P.L. in Mechanical Engineering/Production, Manufacturing of Technology - two posts
- Advert No. 122/84 - P.L. in Applied Mechanics/Fluids/Thermodynamics - one post
- Advert No. 123/84 - P.L. in Civil/Building Engineering - one post
- Advert No. 124/84 - P.L. in Business Studies/Law - one post

Applicants must have a post-graduate degree or a first degree plus a professional qualification, post-graduate diploma in the appropriate field from a recognised institution with at least five (5) years post-qualification experience, two (2) of which must be at senior lecturer level, involving research, course planning and curriculum development.

Successful candidates will be expected to teach up to higher diploma or equivalent conduct research in the relevant fields and develop curriculum within the department. Applicants must indicate clearly the field they are applying for.

Salary Scale: K1,400 by 132 to 3,000 by 156 to 4,010 p.a.

Advert No. 125/84 - Principal Lecturer (Dean of Students) - one post  
Applicants must be mature professionally trained teachers with at least five (5) years experience, two (2) of which must be at senior lecturer or equivalent level.

The successful candidate will be expected to deal with students' welfare, guidance and counselling.

Salary Scale: K1,400 by 132 to 3,000 by 156 to 4,010 p.a.

**SENIOR LECTURERS 40 POSTS**

- Advert No. 111/84 - Senior Lecturer in Electrical Power, Telecommunications/Electronic Electrical Installation - six posts
- Advert No. 112/84 - Senior Lecturer in Civil/Highway Building Engineering - three posts
- Advert No. 113/84 - Senior Lecturer in Quantity Surveying - one post
- Advert No. 114/84 - Senior Lecturer in Water Engineering - one post
- Advert No. 115/84 - Senior Lecturer in Land and Surveying - one post
- Advert No. 116/84 - Senior Lecturer in Library and Information Studies - one post
- Advert No. 117/84 - Senior Lecturer in Letter Writing - one post
- Advert No. 118/84 - Senior Lecturer in Food and Accommodation Operations - one post
- Advert No. 119/84 - Senior Lecturer in Lab Practice - one post
- Advert No. 120/84 - Senior Lecturer in Linguistics/Thermodynamics - one post
- Advert No. 121/84 - Senior Lecturer in Production Technology - two posts
- Advert No. 122/84 - Senior Lecturer in Applied Mechanics - one post
- Advert No. 123/84 - Senior Lecturer in Chemical Process - one post
- Advert No. 124/84 - Senior Lecturer in Construction Plant Engineering - one post
- Advert No. 125/84 - Senior Lecturer in Agricultural Engineering - two posts
- Advert No. 126/84 - Senior Lecturer in Conditioning Engineering - one post
- Advert No. 127/84 - Senior Lecturer in Mechanical Engineering (New and Renewable sources of Energy) - two posts

- Advert No. 115/84 - Senior Lecturer in Plant Maintenance - two posts
- Advert No. 116/84 - Senior Lecturer in Refrigeration - one post
- Advert No. 117/84 - Senior Lecturer in Automotive Engineering - one post
- Advert No. 118/84 - Senior Lecturer in Welding and Fabrication - one post
- Advert No. 119/84 - Senior Lecturer in Mechanics of Fluids - one post
- Advert No. 120/84 - Senior Lecturer in Mathematics - two posts
- Advert No. 121/84 - Senior Lecturer in Statistics - one post
- Advert No. 122/84 - Senior Lecturer in Audio Visual Technical Communication Technology - one post

Advert No. 123/84 - Senior Lecturer in English Curriculum Development/General Studies - two posts.

Applicants must have a degree in the appropriate field from a recognised institution with at least four (4) years post-qualification experience, two (2) of which must be teaching at lecturer or equivalent level.

Post-graduate degree/qualification will be an added advantage. Successful candidates will be expected to teach up to higher diploma or equivalent level, conduct research in the relevant field and also take part in curriculum development within the department.

Applicants must indicate clearly the field they are applying for.

Salary Scale: K2,311 by 108 to 3,141 by 131 to 3,540 p.a.

**LECTURER - 118 POSTS**

- Advert No. 110/84 - Lecturer in Physical Science - two posts
- Advert No. 111/84 - Lecturer in Structural Mills - one post
- Advert No. 112/84 - Lecturer in Transport Management - one post
- Advert No. 113/84 - Lecturer in Business Finance - three posts
- Advert No. 114/84 - Lecturer in Management - one post
- Advert No. 115/84 - Lecturer in Aviation - two posts
- Advert No. 116/84 - Lecturer in Auditing - three posts
- Advert No. 117/84 - Lecturer in Electronic/Computer - five posts
- Advert No. 118/84 - Lecturer in Electrical Installation - five posts
- Advert No. 119/84 - Lecturer in Electrical Power - ten posts
- Advert No. 120/84 - Lecturer in Telecommunications - four posts
- Advert No. 121/84 - Lecturer in Quantity Surveying - three posts
- Advert No. 122/84 - Lecturer in Building Technology - two posts
- Advert No. 123/84 - Lecturer in Water Engineering, Public Health Engineering - 3 posts
- Advert No. 124/84 - Lecturer in Geology and Soil Mechanics - 1 post

- Advert No. 119/84 - Lecturer in Workshop Practice and Technology (Carpentry) - 1 post
- Advert No. 120/84 - Lecturer in Workshop Practice and Technology (Masonry) - 1 post
- Advert No. 121/84 - Lecturer in Library and Archival Studies - 1 post
- Advert No. 122/84 - Lecturer in Clothing Technology/Fashion and Textiles - 1 post
- Advert No. 123/84 - Lecturer in Food and Beverage Management - 1 post
- Advert No. 124/84 - Lecturer in Physics - 1 post
- Advert No. 125/84 - Lecturer in Biology - 1 post
- Advert No. 126/84 - Lecturer in Soil Chemistry - 1 post
- Advert No. 127/84 - Lecturer in Chemical Engineering - 1 post
- Advert No. 128/84 - Lecturer in Ecology - 1 post
- Advert No. 129/84 - Lecturer in Food Technology - 2 posts
- Advert No. 130/84 - Lecturer in Applied Chemistry - 1 post
- Advert No. 131/84 - Lecturer in Construction Plant Eng. - 2 posts
- Advert No. 132/84 - Lecturer in Motor Vehicle Engineering - 3 posts
- Advert No. 133/84 - Lecturer in Agricultural Engineering - 4 posts
- Advert No. 134/84 - Lecturer in Air Conditioning Engineering - 2 posts
- Advert No. 135/84 - Lecturer in Plant Engineering - 4 posts
- Advert No. 136/84 - Lecturer in Heat Engineering - 2 posts
- Advert No. 137/84 - Lecturer in Refrigeration Engineering - 2 posts
- Advert No. 138/84 - Lecturer in Production Technology and Practice - 4 posts
- Advert No. 139/84 - Lecturer in Mechanics of Fluids/Mechanical Engineering - 3 posts
- Advert No. 140/84 - Lecturer in Engineering of Thermodynamics - 3 posts
- Advert No. 141/84 - Lecturer in Applied Mechanics - 3 posts
- Advert No. 142/84 - Lecturer in Welding Technology and Practice - 3 posts
- Advert No. 143/84 - Lecturer in Mathematics - 4 posts
- Advert No. 144/84 - Lecturer in Computer Science - 2 posts
- Advert No. 145/84 - Lecturer in Accounting - 2 posts
- Advert No. 146/84 - Lecturer in Economics - 1 post
- Advert No. 147/84 - Lecturer in Statistics - 1 post
- Advert No. 148/84 - Lecturer in Construction Technology - 2 posts
- Advert No. 149/84 - Lecturer in Civil Engineering/Structure - 3 posts
- Advert No. 150/84 - Lecturer in Land Survey - 2 posts
- Advert No. 151/84 - Lecturer in Instrumentation - 1 post
- Advert No. 152/84 - Lecturer in Production Engineering - 2 posts
- Advert No. 153/84 - Lecturer in Chemical Process - 2 post
- Advert No. 154/84 - Lecturer in Renewable Sources of Energy - one post

Applicants must have a degree or equivalent professional qualifications in the appropriate area from a recognised institution together with not less than two (2) years post-qualification/teaching experience. A post-graduate qualification will be an added advantage.

Successful candidates will be expected to lecture in his/her area of specialisation up to higher diploma or equivalent and assist in planning and development of curriculum. Applicants must indicate clearly the field they are applying for.

Salary Scale: K2,154 by 99 to 2,654 by 108 to 2,910 p.a.

**ASSISTANT LECTURER - 2 POSTS**

Advert No. 155/84 - Asst. in Audio Visual Technic, Communication Technology - 1 post  
Applicants must have a post-graduate diploma or equivalent professional qualifications in the appropriate area plus two (2) years post-qualification/teaching experience.

Successful candidates will be expected to lecture and perform duties in the media services department which will include preparation and development of Audio and Visual materials.

Advert No. 156/84 - Asst. in French/Swahili - 1 post  
Applicants must be professionally trained graduate teachers with at least three (3) years post-qualification experience.

Successful candidate will lecture French/Swahili to students taking various courses.  
Salary Scale: K2,754 by 72 to 2,154 by 99 to 2,424 p.a.

**JKCAT VACANCIES**

**ADVERT: 177/84 - PRINCIPAL LECTURER (MECHANICAL ENGINEERING) - ONE POST**

Applicants must have a B.Sc. in Mechanical Engineering preferably with a post-graduate degree or post-graduate research experience in their field of specialisation. They must have five (5) years teaching or working experience three (3) of which must be at the level of lecturer or equivalent.

Successful candidate will be expected to teach, initiate and guide the development curriculum materials and participate in the administration of the faculty.

**ADVERT: 178/84 - PRINCIPAL LECTURER (AGRIC. ENGINEERING/HORTICULTURE) - ONE (1) POST**

Applicants should have a degree in Agriculture from a recognised university plus a graduate degree or diploma in a specialised area of agricultural engineering or horticulture. They must have five (5) years teaching or working experience three (3) of which must be at the level of senior lecturer or equivalent position.

Successful candidate will be expected to teach, initiate and guide the development curriculum materials and participate in the administration of the faculty.

**ADVERT: 179/84 - PRINCIPAL LECTURER (DEAN OF STUDENTS) - ONE (1) POST**

Applicants must be mature professionally trained teachers with at least five (5) years experience, two (2) of which must be at senior lecturer or equivalent level.  
The successful candidate will be expected to deal with students' welfare, guidance and counselling.

**ADVERT: 180/84 - SENIOR LECTURER (MECHANICAL ENGINEERING) - ONE (1) POST**

Applicants must have a degree or equivalent professional qualification in the appropriate field from a recognised institution and at least four (4) years relevant post-graduate

... of which must be at lecturer level and involving workshop practice and analysis, motor vehicle or construction plant.  
The successful candidate will be responsible for overall supervision and organisation of workshop planning and lecturing to students up to technician part III or equivalent and other duties assigned by the head of department.

**ADVERT: 181/84 — SENIOR LECTURER (AGRIC. ENGINEERING) — ONE (1) POST**

**ADVERT: 182/84 — SENIOR LECTURER (FOOD PROCESS) — ONE (1) POST**

Applicants must have a degree or equivalent professional qualifications in the above area from a recognised university and M.Sc. or post-graduate qualification. They must have at least five (5) years post-qualification experience two (2) of which must be at lecturer level. Successful candidate will be responsible for overall supervision of the relevant part of the course. They will also teach students taking diploma courses.

**ADVERT: 183/84 — SENIOR LECTURER (GENERAL STUDIES)**

Applicants must be professionally qualified graduate teachers with at least six (6) years teaching experience including teaching English in secondary and post-secondary institutions. Successful candidate will among other things organise English courses for technical students.

**ADVERT: 184/84 SENIOR LECTURER (BUILDING & CIVIL ENGINEERING) — ONE (1) POST**

Applicants must have a degree or equivalent professional qualifications in building and civil engineering from a recognised university and M.Sc. or post-graduate diploma. Must have at least five years teaching experience two (2) of which must be at lecturer level. The successful candidate will head the department and lecture students taking diploma & technician courses.

**ADVERT: 185/84 — SENIOR LECTURER (ELECTRICAL ENGINEERING) ONE (1) POST**

Applicants must have a degree or equivalent professional qualifications in electrical engineering from a recognised institution and at least four (4) years relevant post-qualification experience two of which must be at lecturer level and involving workshop practice and technology. The successful candidate will be responsible for overall supervision and organisation of workshops, planning and lecturing to students up to technician part III or equivalent and any other duties assigned by the Head of Department.

**ADVERT: 186/84 — SENIOR LECTURER (WATER & OIL) — ONE (1) POST**

Applicants should have a B.Sc. degree and M.Sc. or post-graduate diploma in Water and Oil from a recognised institution and at least four (4) years post-graduate experience in (2) of which must be at lecturer level. Successful candidate will be expected to lecture and demonstrate to students taking diploma courses.

**ADVERT: 187/84 — LECTURER (AGRICULTURE MACHINERY & 188/84 CONSTRUCTION PLANT)**

Applicants must have a degree or equivalent professional qualifications in the appropriate area from a recognised institution together with not less than two years post-graduate professional/teaching experience. A post-graduate qualification will be an advantage. Successful candidates will be expected to lecture in their area of specialisation up to diploma or equivalent and assist in planning and development of curriculum.

**ADVERT: 189/84 — LECTURER (STRUCTURES AND PROCESSING) — ONE (1) POST**

Applicants must have a degree or Higher National Diploma in Water Resources, Structures or equivalent professional qualification from a recognised institution at least five (5) years post-graduate working/teaching experience a post-graduate will be added advantage. Successful candidate will be expected to teach concrete technology, soil mechanics and lecture to students taking three years diploma courses.

**ADVERTS: 190/84 — LECTURER IN FARM POWER AND MACHINERY — (1 POST)**

**191/84 — LECTURER IN SOIL AND WATER ENGINEERING — (1 POST)**

**192/84 — LECTURER IN FOOD TECHNOLOGY (1 POST)**

**193/84 — LECTURER IN FOOD MICROBIOLOGY (2 POSTS)**

**194/84 — LECTURER IN ENTOMOLOGY (1 POST)**

**195/84 — LECTURER IN POMOLOGY (1 POST)**

Applicants must have a degree or equivalent professional qualification from a recognised university and at least two (2) years post-graduate working/teaching experience. A post-graduate qualification will be an added advantage. Successful candidate will be required to lecture in the relevant areas to students taking three-year diploma courses.

**ADVERT: 196/84 — LECTURER (CIVIL ENGINEERING & WATER RESOURCES) — ONE (1) POST**

Applicants should have a degree in Civil Engineering Water Resources option or Higher National Diploma in Water Resources or its equivalent and at least two (2) years working experience after graduating.

The successful candidate will be required to lecture and teach foundation engineering geology, concrete technology and structures to technician students up to Part III Technician course as well as organising and developing relevant laboratories.

**ADVERT: 197/84 — LECTURER (ARCHITECTURAL DESIGN AND GRAPHIC TECHNIQUES) — ONE (1) POST**

Applicants should have a degree in architectural design or its equivalent and at least two years working experience after graduating.

The successful candidate will be required to teach/lecture in architectural design, graphic techniques, model making, technical/geometrical drawing, building construction, building specification and regulations to technician students up to Part III of technician course as well as organising and developing the course.

**ADVERT: 198/84 — LECTURER (LAND SURVEYING AND PHOTOGRAMMETRY) — ONE (1) POST**

Applicants should have a degree in land surveying and photogrammetry or its equivalent and at least two (2) years working experience after graduating.

The successful candidate will be required to lecture/teach constructional surveying as well as mathematics to technician students as well as organising and developing surveying sector.

**ADVERT: 199/84 — LECTURER (BUILDING CONSTRUCTION AND CONSTRUCTION MANAGEMENT) — ONE (1) POST**

Applicants should have a degree or higher national diploma in building construction materials of construction, site administration and management to technician students up to Part III as well as assisting in the development of the course. A knowledge of concrete technology will be an advantage.

**ADVERT: 200/84 — LECTURER (IRRIGATION ENGINEERING, HYDROLOGY AND HYDRAULICS) ONE (1) POST**

Applicants should have a degree or higher national diploma in water resources and at least two years working experience after graduation.

**ADVERT: 201/84 — LECTURER (PHYSICAL EDUCATION) — ONE POST**

Applicants must be professionally trained graduate teachers who have majored in physical education from a recognised university. They must have three years teaching experience and proven ability in organising of sports and games. Applicants who hold diploma in physical education plus proven experience in physical education training and sports administration will also be considered.

The successful candidate will be expected to teach diploma students and also college games and sports activities.

**ADVERT: 202/84 — LECTURER (MATHEMATICS) TWO (2) POSTS**

Applicants must be professionally qualified graduates with a minimum of three years teaching experience both at "O" and "A" levels in Kenyan secondary school. The successful candidates will be expected to teach mathematics to engineering and agricultural students.

**ADVERT: 203/84 — LECTURER (GENERAL STUDIES) (1) ONE POST**

Applicants should be professionally qualified graduate teachers in literature or language and a strong background of social sciences.

The successful candidates will be required to teach English language for communication and report writing. The candidate will also teach psychology, rural sociology and Government procedure.

**ADVERT: 204/84 — LECTURER (ELECTRICAL ENGINEERING) TWO POSTS (2)**

Applicants must have B.Sc. degree in electrical engineering from a recognised university together with not less than two years post-graduate qualification relevant professional/teaching experience.

The successful candidates will be expected to lecture in their area of specialisation up to Technician Part III courses and assist in planning and development of curriculum.

**ADVERT: 205/84 — LECTURER (PLUMBING, CARPENTRY/MASONRY & JOINERY PRACTICE AND TECHNOLOGY) — TWO POSTS**

Applicants must have a degree in their area of specialisation from a recognised university together with not less than two years post-graduate qualification relevant professional/teaching experience — a post-graduate qualification will be an advantage. Successful candidates will be required to lecture to students up to Technician Part III.

**ADVERT: 206/84 — LECTURER (MECHANICAL ENGINEERING) ONE POST (1)**

Applicants must have a B.Sc. degree in mechanical engineering from a recognised university together with not less than two years post-graduate qualification will be an advantage.

The successful candidate will be expected to lecture to students up to technician Part III courses.

Salary Scale: Principal Lecturers: KSh 401 by 130 to 3,806 by 156 to 4,428 p.a.  
Senior Lecturers: 17,712 by 100 to 3,144 by 132 to 3,340 p.a.  
Lecturers: 11,154 by 50 to 2,604 by 101 to 2,926 p.a.



### 3 諸外国による類似プロジェクトに対する援助

現在のジョモケニヤック農工大プロジェクトで大切なことは、授業を含めた学校運営をケニア人自身の手で行える様にするることであり、ケニア人教官の養成が課題となっている。ここでケニア国内の他の類似プロジェクトに対する諸外国の援助を示す。

はじめに各大学の教官の現状、次に、その養成の課程を述べる。

#### ① 各大学の教官の資格と割合

資格 大学名	博士	修士	学士	HND	Part III	その他	外国人	ケニア人	全体
Egerton 大学 (Diploma コース)	9 10%	41 46%	31 34%	0 0	0 0	1 1%	8 9%	82 91%	90
1984. 大学紀要から									
Kenya Polytechnic (Part I~III HND、その他)	2 1%	13 8%	63 40%	21 13%	17 11%	32 20%	49 24%	158 76%	207
1982/83. 入試案内 から	・その他 不明者10名 6%。 ・Media Service 学科数名を除く。								
Monbasa Polytechnic (Part I~III HND、その他)	0 0 0	3 6.5%	14 30%	19 41%	6 13%	4 9%	41 47%	46 53%	87
1980/81. 紀要から									
KTTC (中等技術教員免許)	1 1%	12 14%	68 77%	2 2%	0 0%	5 6%	0 0%	88 100%	88
1985. 紀要									
JKCAT (Part I~III Diploma)	1 1%	14 14%	31 30%	35 34%	16 16%	6 6%	25 20%	103 80%	128
1985. 9							日本人の数は、 教えている者の みにした。		

各数 / ケニア人教官数 × 100

各数 / 全体 × 100

※ 上記教官は、事務棟、図書館の教官、学長、等は含まない。

前述のうち、エジャートン コレッジは、ジョモケニヤッタ農工大学農学部モデル  
また、ケニヤ、モンバサ ポリテクニクは、工学部のモデルといわれているが、表か  
らわかるように、それぞれの教官の資格の構成は、

- エジャートン コレッジ ————— 修士中心
- ケニヤポリテクニク、KTTC ——— 学士中心
- モンバサポリテクニク、JKCAT—— 学士、HNDが中心

となっている。こうした教官の資格レベルは、必然的に各校の教育レベルにつながり、  
エジャートンコレッジは来秋から University へ昇格が予定されている。

## ② 各大学に対する、諸外国の教員養成援助

Egerton 大学：アメリカが過去 2 期に渡り、以下の教員養成の援助を行ってきた。

### 第一期 1963～68

技術協力

当時ディプロマレベル（短大と同等）の教官に対し、2 年程度の学士の  
資格をとらせる。

人数は不明

ナイロビ大学への編入とアメリカの大学での受入。

### 第二期 1978～84（1978 調印、1979 開始）

技術協力

無償と借款合わせ 1,020 万ドル（2,360 万ドル）  
（同時期施設援助）

アメリカ側投入：31 名教授レベルの派遣

ケニア人受入：60 名の教官が、学士（ナイロビ大主に）、修士、博士（ア  
メリカ）の各課程をおさめた。

尚、この間、毎年 学長、副農業局長、理事長の 3 名が留学中のケニア  
人教官を視察するためアメリカへ派遣されている。

現在、第三期として、第二期と同様の計画がなされ、1986 年から 5 年間、50 名  
のケニア人教官の留学に援助することについて、アメリカとほぼ合意に達してい  
る。

第二期と予定の第三期合わせ、年間 10 名以上の教官がアメリカへ留学を受入れ  
られていることになる。

ケニヤポリテクニクとモンバサポリテクニク：

旧宗主国であるイギリスは、2 つのポリテクニクに対し、独立米、技術援助  
を行ってきた。

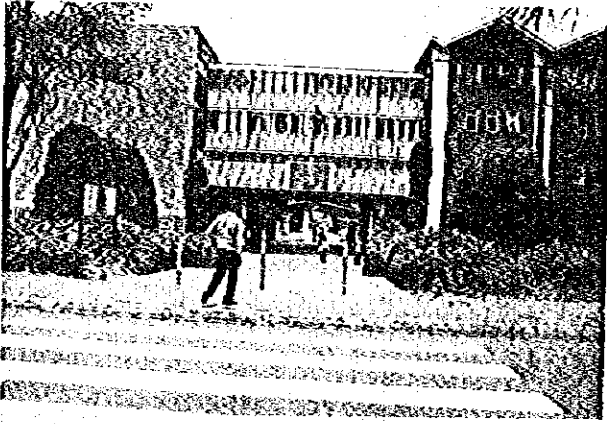
イギリスの援助で、イギリス人教官が継続的に派遣されてきたが、1987 年まで  
に彼らを 7 名に縮小し、1988 年には全員ケニア人教官にする計画である。

学位取得コースの受入れは76名、年間12.5名である。又、今後さらに年間32名の研修・留学生受入れを、4年間続けることに対し、イギリスと合意に達している。

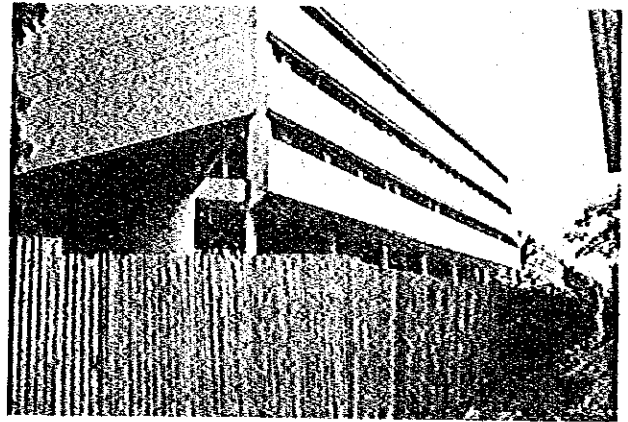
**K.T.T.C.(ケニア・テクニカル・ティーチャーズ・カレッジ):**

カナダ政府が、学校の建設、運営、人材に対し、協力を行なってきた。当初は、運営、教育共に、カナダ人によってなされ、その間、ケニア人教官の雇用・育成を行なった。カナダへ留学させたケニア人教官の帰国に伴い、徐々にカナダ人から運営、教育を引継ぎ、10年間(計画時も含める)の援助協力終了時(1983年)には、完全にケニア人に手渡された。現教官のほぼ全員がカナダ留学の経験をもつ。

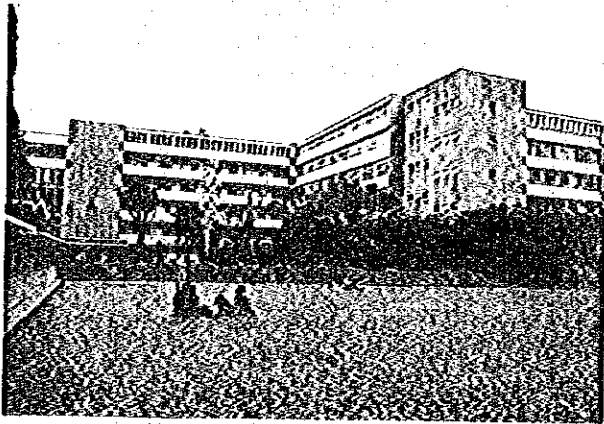
4. ナイロビ大学紹介 写真



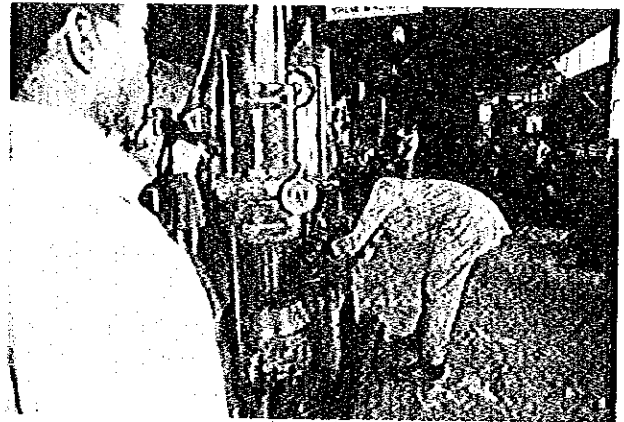
ナイロビ大学正面



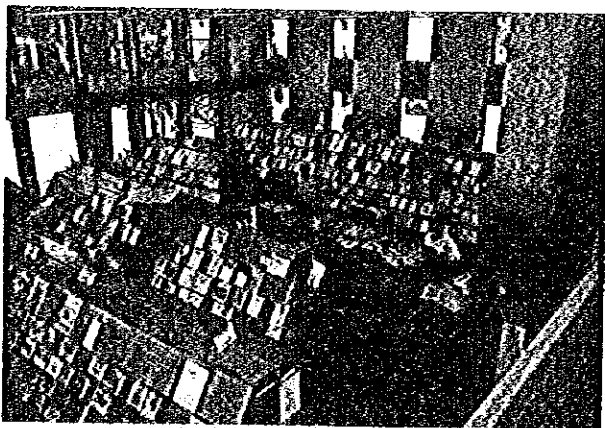
ナイロビ大  
新築中の図書館



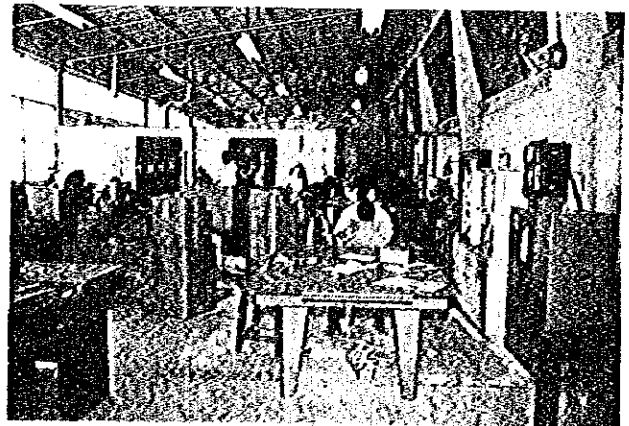
ナイロビ大学キャンパス



工学部工場



ナイロビ大学図書館



同 上

## 第6章 将来展望等検討に関する一提言



## 第6章 将来展望等検討に関する一提言

1. プロジェクト協力期間延長後、初の“計画打合せ”を日本人チーム及び「ケ」側関係者と実施した結果、協力期間内での目標である“教育機関としての基盤整備”を達成するため当面解決しなければならない問題として、次の2点、長期的な問題として1点が挙げられる。

- ① ケニア人教官の配置と質の向上
- ② 大学組織及び教育システムの整備
- ③ 大学への発展構想

①については、優秀な教官の採用、服務規律の明確化と励行、日本における技術研修の効率化、現場での技術移転・指導の効率化、学部・学科・コース間の教官数適正配分の再検討等が具体的内容であり、

②については、ケニア側負担事項実施の促進、予算執行の適正化と効率化、農場組織の確立、農学部農業工学科及び食品加工学科の見直し、類似コースの統廃合、Academic Policy等の確立、教育活動と連携した研究開発活動等が細目事項として挙げられる。又、

③については、エジャートン農科大学等他大学の内容昇格の実績及び動き、1984年から開始されたケニア国開発5ヶ年計画の絡み、8-4-4新教育制の導入等、本プロジェクトをとりまく環境から起因した大学への発展構想である。以上、当面の問題解決の方策を検討すること、社会ニーズの変化、教育の動向、他機関の対応等適確に把握し、本プロジェクトの将来構想を検討すべき段階に来ていると考えられる。

2. 本プロジェクトに対するわが国の今後の協力、対応振りを検討する場合、又、62年度に予定しているエバリュエーションを実施する上でも、当面解決すべき課題も含め、中長期的なJKCAT構想の本格的な検討をまず第一に開始する必要がある。

### 3. 検討課題

- (1) 協力期間内に於ける問題点（課題）と対応策
- (2) 中・長期構想とわが国の協力

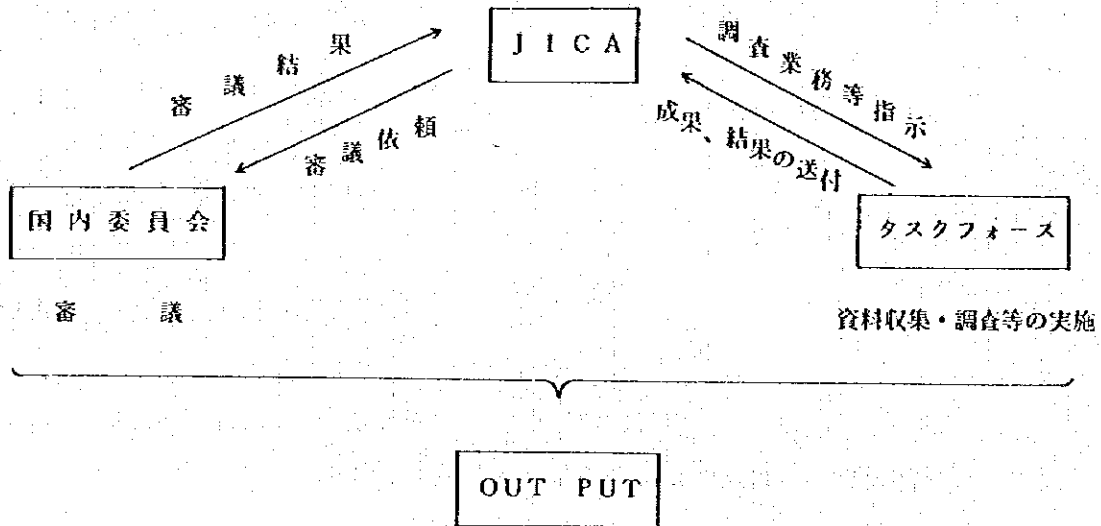
### 4. 実施方法

(1) 国内委員会に於て、上記3.(1)及び(2)について問題を整理し、検討に必要な、基礎的資料、情報、或は調査項目を抽出し、下記に述べる、プロジェクトサイドのタスクフォースに依頼する収集事項、調査事項を整理する。

(2) プロジェクトサイドの協力が不可欠であることから、日本人チームの中から有能なメ

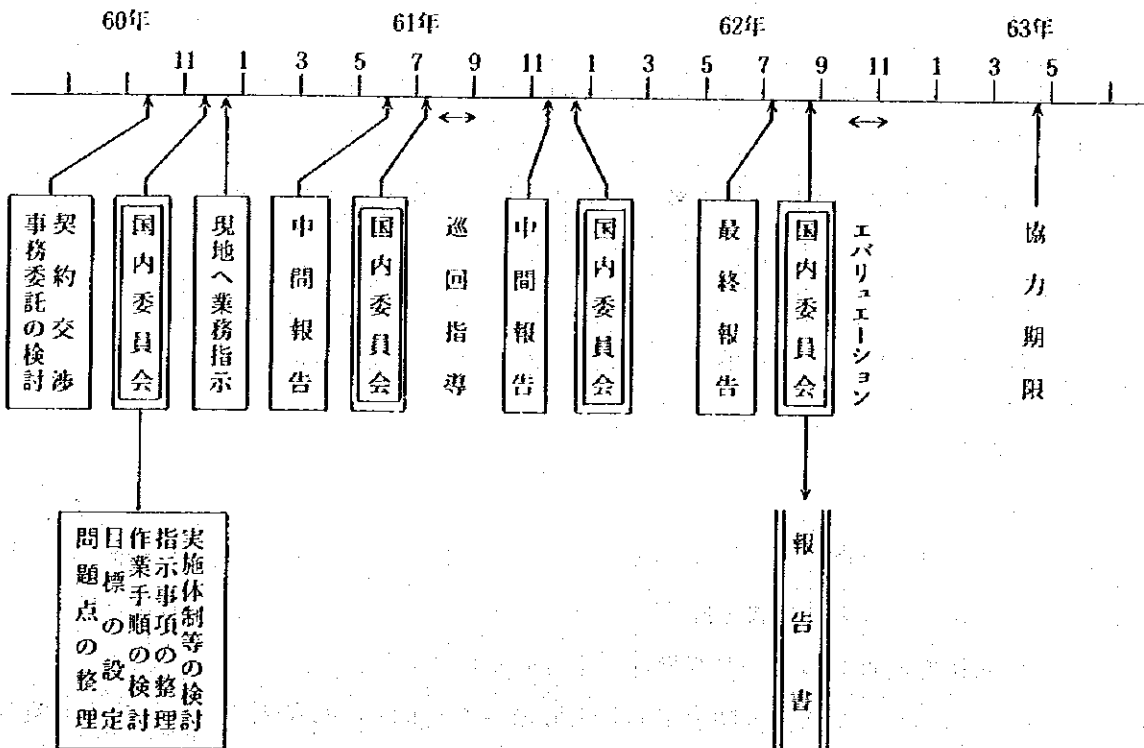
メンバーを選出し、必要があればJICAナイロビ事務所員の参加も得て、現地にタスクフォースを設置し、業務の一環として、資料の収集、調査等の実施を行う。

5. 実施体制



6. 実施スケジュール

一定の成果を得るには、かなり長期に亘る資料収集、調査が必要とされるが、63年4月の協力期間の期限もあるので、作業完了時を62年度エバリュエーション時期までに終える目途とする。スケジュールの一例として挙げるならば、次のとおり。





## 第 7 章 資 料 集



1. 1984年11月16日開催のステアリングコミティー議事録

J. K. U. A. T.

MINUTES OF THE STEERING COMMITTEE MEETING HELD ON  
FRIDAY 16TH NOVEMBER, 1984 IN THE COLLEGE  
CONFERENCE ROOM AT, 09.00 A.M.

PRESENT - KENYA TEAM

- Mr. D.M. Mbiti - Director, Technical and Higher Education/Chairman  
Prof. P.M. Githinji - Chairman, Board of Governors  
Mr. J.M. Githalga - Principal  
Dr. G.A. Orié - Deputy Principal/Recorder  
Mr. H. Bagha - Treasury  
Mr. Mbugua - Rep. Director of Industrial Training  
Mr. S.S. Wéru - Dean, Faculty of Agriculture  
Mr. J.N. Mureithi - Dean, Faculty of Engineering

JAPANESE CONSULTATION TEAM

- Prof. H. Nakagawa - Kyoto University (Mission Leader)  
Prof. J. Iwasa - Okayama University (Mission Member)  
Mr. T. Kaneko - JICA Headquarters (Mission Member)

JAPANESE TEAM AT JKCAT

- Prof. H. Wada - Japanese Team Leader  
✓ Mr. T. Nakano - Assistant Team Leader/Coordinator  
Mr. S. Kimura - Assistant Team Leader, Engineering  
Mr. T. Sugiyama - Assistant Team Leader, Agriculture  
Mr. T. Suzuki - Expert, Electrical Department  
Mr. H. Moriya - Expert, Horticulture Department  
Miss N. Okada - Expert

JICA NAIROBI OFFICE

- Mr. T. Nagashima - JICA Nairobi Office

APOLOGIES

Mr. O. Nakano

First Secretary, Embassy of Japan

MIN. 9/84: OPENING REMARKS

The Chairman called the meeting to order at 09.15 a.m.

He extended Professor Makagawa and members of the Consultation Team a warm welcome to Kenya and JKCAT, and wished them a successful stay in the country.

The Chairman and the Team Leader introduced the Kenyan and Japanese Teams respectively.

MIN. 10/84: MINUTES OF THE MEETING HELD ON MONDAY 16TH JULY, 1984

Minutes of the previous meeting held on Monday 16th July, 1984, were confirmed as a true record of the deliberations.

MIN. 11/84: MATTERS ARISING FROM THE MINUTES

(a) MIN. 3/84 (a) CONSTRUCTION OF THE 5TH HOSTEL AND STAFF HOUSES

It was HOTED that provision have been made in the 1985/86 estimates for the construction of the 5th hostel and staff houses.

As far as Part III Technician training was concerned, the College could admit the students in January, 1985, if arrangements could be made to have Part I students (1983 class) out on industrial attachment during the January - March Academic Term.

...../3.

It was AGREED that the College must press hard for preliminary actions such as tendering for the works to be initiated right away so that tenders could go to the press even before budget time next year.

(b) MIN. 3/34 (b) JOB PLACEMENT FOR COLLEGE GRADUATES

The College would undertake appropriate counselling of students with respect to Job Placement.

(c) MIN. 3/34 (c) REVIEW OF EDUCATIONAL POLICY IN THE FACULTY

- (i) The issue of splitting the Agricultural Engineering into two programmes, namely: Soil and Water Engineering, and Farm Machinery was raised. The Committee questioned the merits of such a move in view of the persistent shortage of qualified staff to teach Agricultural Engineering Subjects.

It was pointed out that the split would not have any adverse effect on staffing since the major part of the syllabus would be common to both options. The College would, however, continue to offer the one diploma in Agricultural Engineering until such time that staffing improves and the proposed syllabus is approved by the appropriate FIE Panel.

- (ii) Mr. Ebugua of Directorate of Industrial Training confirmed that there was no requirement for the College to be registered as an "III-PLANT" training unit. Sponsors of students to JICAT may claim expenses from the Training Levy in the normal manner. However, it would be ideal to have students attached to actual industrial set-ups for practical training, in addition to what they do in the College.

(d) MIN. 3/34 (d) PILOT FARM

- (i) Construction was in progress, and the Contractor's reports indicated that about 70 per cent of work was completed. The whole Project was expected to be fully completed by April, 1985.

...../4

- (ii) The College had to acquire some pieces of land from farmers near Ndarugu River to allow for the access road and pipeline, and compensation would have to be made on receipt of valuation from the Ministry of Lands. It was AGREED that this should be dealt with administratively by the Board of Governors.

MIN. 12/84: REPORT BY THE CONSULTATION TEAM

Professor Hakagawa, the Team Leader, reported briefly as follows:-

(a) 3-Year Extension

Discussions had been held in Japan, after which it was decided that the technical cooperation for JECAT should be extended for a further 3 years.

The decision on 3 years was based on two assumptions:

- (i) That the Faculty of Agriculture would take approximately 3 years to develop the Pilot Farm to full utilization from the time of completion in 1985.
- (ii) That it would not be possible for the Faculty of Engineering to admit students for Part III training until 1985, and that such training may not be completed until sometime in 1986.

(b) Major Purpose of Extension

The Japanese Government wished to see the 3 years extension spent on the completion of the original schedule of the Record of Discussions which had been signed on 19th April, 1980 and which was currently in force.

However, the inputs by the Japanese Government during this period would be on a decreasing level as compared to the current situation.

(c) Kenya Government Contribution

The Japanese Government would like to see the commitments by the Kenya Government completed during the extension period. Of special importance

...../5

in this regard were:

- (i) Construction of the 5th Hostel;
- (ii) Staff Houses; and
- (iii) Recruitment of Kenyan Counterparts to work with Japanese Experts and Volunteers for successful transfer of technology.

MIN. 13/84: COMMENTS ON THE REPORT BY THE CONSULTATION TEAM

The Chairman thanked the Team for elaborating on the various issues in their report. The report was discussed and comments made as follows:

(a) Kenya Government Contribution

Mr. Bagha (Treasury) confirmed to the Committee that provision had been made for development estimates to cover the 5th hostel and staff houses as follows:

1985/86 Fiscal Year - K2300,000

1986/87 Fiscal Year - K2250,000

It was AGREED that discussions should be initiated so that tenders could be sent to the press in January/February 1985 to avoid any possible delays in the construction works.

(b) Recruitment of Kenyan Counterparts

(i) It was reported that recruitment of Kenyan Counterparts and pairing of the same with Japanese Experts and Volunteers had already been initiated by the College. However, some of the Counterparts had gone to Japan for further training, and for some subject specializations it was difficult to find qualified personnel.

(ii) It was AGREED that a progress report on this exercise be forwarded to JICA in January, 1985. The Report should show a list of Japanese Experts/Volunteers and their Kenyan Counterparts.

...../6

(c) Staff Training

- (i) The Consultation Team expressed their concern at the loss of staff who had been trained in Japan through interdiction, suspension, dismissal, and transfers to KNEC and KIE. They felt this could create staff instability which would not be good for the College Academic Programmes.
- (ii) The Chairman assured the Committee the Ministry would ensure staff stability at JKCAT by minimizing transfers to other bodies.
- (iii) The Chairman of the Board of Governors, Prof. Githinji, confirmed that the Board had addressed itself to the problem of staff attrition, and even discussed the possibility of bonding. However, it appeared that the Government Bonding System had proved most ineffective and difficult to implement.
- (iv) The Committee noted with satisfaction that staff who had been sent to Japan recently are good and committed to their work and studies. It was therefore hoped that in future, the attrition rate would be much lower than has been the case.
- (v) It was RECOMMENDED that serious efforts be made by the College in socialisation and orientation of staff prior to departure for Japan, and on return to Kenya.
- (vi) It was also RECOMMENDED that for subject areas (e.g. Electronics) which have high demand, the College might consider sending more people for training so that the future losses could be taken care of.
- (vii) On the selection and despatch of trainees to Japan, it was emphasised that people should be selected and sent for definite training purposes. The training programmes for such trainees must be sorted out well in advance of their departure for Japan to avoid any misunderstanding which might arise with regard to the quality of training. It was AGREED that where Groups Training Programmes are preferred, the College and JICA should ensure that such programmes were of superior quality.

(d) Accountability of Japanese Staff

- (i) Although this issue had been raised at previous Steering Committee Meetings, a few cases had been observed in which certain staff did not fully appreciate the fact that they should be accountable to the Principal and other College Authorities.

.....//



It was AGREED that there was a need for the College to give proper orientation to Japanese Experts and Volunteers. This would help to make them understand their roles and relationship to College Authority, in addition to reducing their cultural shock. A good induction programme should be worked out for such staff.

III. 4/34: DRAFT RECORD OF DISCUSSIONS

The Japanese Consultation Team had forwarded to the Steering Committee, and the College Authorities, copies of a Draft Record of Discussions. This was intended to form a basis for the final Record of Discussions between the Team and the Kenyan Authorities to be signed on 19th November, 1984.

The draft was presented and explained to the committee by the Team Leader, after which several comments and suggestions were made as recorded herein.

(a) Three years extension

The Committee AGREED on the length of the extension period, and that implementation would be based on the Record of Discussions of 19th April, 1980.

(b) Contribution by the Government of Japan

- (i) The College Authorities requested that the Team should consider *sympathetically funding and support for the Library, Research & Development, and Production Units.*
- (ii) It was therefore AGREED to amend the Annex to the draft by indicating that Provision of Equipment should take into consideration equipment for the Library, Publications, Research & Development and Production Units.
- (iii) It was further AGREED that a detailed paper on proposals for Research and Development, and Production Units be prepared and forwarded to JICA. The Japanese Government will be prepared to consider technical cooperation for these items as long as they were within the scope of educational and training objectives of JKCA/T.

...../3

- (iv) The Team pointed out that the requests which had been submitted by the Faculties for Experts, Volunteers, and Scholarships appeared a bit excessive. The Japanese Government would offer, during the extension term, not more than 20 Experts, 19 Volunteers, and 33 JICA Scholarships. The number of MOHEUSHO Scholarships was still to be determined.
- (c) Kenya Government Contribution
- (i) The placement of Kenyan Counterpart to Japanese Experts and Volunteers was AGREED. [See Min. 13/04 (b)]
- (ii) Construction of 5th hostel and staff houses was AGREED. [See Min. 11/04 (a)]. It was, however, AGREED that the construction of classroom and workshops be deleted from the draft.
- (iii) It was AGREED that as a basis for future expansion of the College, the Authorities should determine the utilization for all the facilities in the College.
- (iv) It was AGREED to adopt the tentative schedule of implementation as had been suggested in the Annex.

MIN. 14/04: CLOSING REMARKS

The Chairman thanked the Japanese Consultation Team for their continued cooperation, and wished them a safe return to Japan. He further thanked all members of the Steering Committee, and extended the Ministry's invitation to the Committee and the Consultation Team to a Luncheon at the Panafric Hotel on Monday 19th November, 1984.

THERE BEING NO OTHER BUSINESS, THE MEETING CLOSED AT 02.00 P.M.

MINUTES APPROVED FOR CIRCULATION BY D.L. I/DIR DATE 30.11.84

MINUTES COMPILED THIS.....DAY OF.....19....

JL/G/rvk.

2. 1985年9月4日開催のステアリングコミティー議事録ドラフト

DRAFT

2. <sup>1985</sup> MINUTES OF THE STEERING COMMITTEE MEETING HELD  
ON WEDNESDAY 4TH SEPTEMBER, 1984, IN THE COLLEGE  
CONFERENCE ROOM, AT 09.00 A.M.

PRESENT

A. KENYA TEAM

- |                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| 1. Mr. C. Kasina     | - | Rep. Director of Technical Education/Chairman |
| 2. Mr. E.N. Njoka    | - | MEST  |
| 3. Mrs. E.K. Wafula  | - | MEST  |
| 4. Mr. J.M. Githaiga | - | Principal                                     |
| 5. Mr. A.K. Kibebe   | - | MEST  |
| 6. Mr. H. Bagha      | - | Treasury                                      |
| 7. Dr. G.A. Orle     | - | Deputy Principal/Recorder                     |
| 8. Mr. S.S. Weru     | - | Dean, Faculty of Agriculture                  |
| 9. Mr. J.N. Mureithi | - | Dean, Faculty of Engineering                  |
| 10. Mr. J.M. Mberia  | - | Registrar                                     |

B. JAPANESE CONSULTATION MISSION

- |                      |   |                                     |
|----------------------|---|-------------------------------------|
| 1. Prof. H. Nakagawa | - | Kyoto University (Mission Leader)   |
| 2. Prof. J. Iwasa    | - | Okayama University (Mission Member) |
| 3. Mr. M. Orihara    | - | MONBUSHO (Mission Member)           |
| 4. Mr. H. Yaoi       | - | JICA Headquarters (Mission Member)  |
| 5. Mr. T. Kusano     | - | JICA Headquarters (Mission Member)  |
| 6. Mr. A. Nagamachi  | - | JICA Headquarters (Mission Member)  |

C. JAPANESE TEAM AT JKCAT

- |                    |   |                                    |
|--------------------|---|------------------------------------|
| 1. Mr. T. Sugiyama | - | Ag. Japanese Team Leader           |
| 2. Mr. T. Nakano   | - | Japanese Team Coordinator          |
| 3. Miss N. Okada   | - | Japanese Expert                    |
| 4. Mr. T. Tsuzuki  | - | Asst. Team Leader, Engineering     |
| 5. Mr. H. Moriya   | - | Expert, Horticulture Department    |
| 6. Mr. S. Kimura   | - | Expert, Buiding & Civil Department |

D. JICA TEAM NAIROBI OFFICE

- |                     |   |                                    |
|---------------------|---|------------------------------------|
| 1. Mr. A. Takahashi | - | JICA Resident Representative       |
| 2. Mr. M. Suemori   | - | Asst. JICA Resident Representative |

E. ABSENT WITH APOLOGIES

- |                        |   |                                    |
|------------------------|---|------------------------------------|
| 1. Prof. P.M. Githinji | - | Chairman, JKCAT Board of Governors |
| 2. Mr. O. Nakano       | - | Japanese Embassy.                  |

MIN. 1/85: OPENING REMARKS

- (a) The Chairman called the meeting to order at 09.23 a.m.

He extended a warm welcome to Professor Nakagawa and Members of the Consultation Mission, and wished them a happy stay in Kenya.

- (b) Formal introduction of the Japanese Mission, Japanese Team at JKCAT, and the Kenyan Team was done, after which the Chairman welcomed all members of the Steering Committee to the meeting.

MIN. 2/85: MINUTES OF THE PREVIOUS MEETING

Minutes of the previous meeting held on Friday, 16th November, 1984 were confirmed and signed as a true record of the deliberations.

MIN. 3/85: MATTERS ARISING FROM THE MINUTES

- (a) MIN. 11/84 (a) CONSTRUCTION OF THE FIFTH HOSTEL AND STAFF HOUSES

The Government had already allocated K£.100,000 for starting these projects. Further funding would be done through supplementary estimates (1985/86) and development estimates (1986/87). It was expected that the projects would be completed by 1987. Actual construction would start around January, 1986.

- (b) MIN. 11/84 (d) PILOT FARM

The project was completed and handed over in March, 1985. However, a leakage developed in the main irrigation storage pond.

It was expected that the repairs to the pond would be completed by the end of September, 1985. Once the repairs are completed, the College will ensure that the Tuition Farm is utilized fully.

- (c) MIN. 12/84 (a) (ii) PART III TRAINING FOR ENGINEERING TECHNICIANS

It was NOTED that the College succeeded in admitting the Technician Part III Students for their training programmes, and that these students had already left the College in August 1985, on completion of their Part III examinations.

- (d) MIN. 13/84 (a) KENYA GOVERNMENT CONTRIBUTION

It was pointed out that the actual allocation for the construction of the Fifth Hostel and Staff Houses was K£.100,000.00 in fiscal year 1985/86. [See Min. 3/85 (a)].

(e) MIN. 13/84 (c) (ii) STAFF STABILITY AT JKCAT

The Mission expressed some concern that the staff stability had not yet been achieved in certain departments of the College.

The Chairman assured the Mission that everything possible would be done to ensure stability. However, it was NOTED that the problem was a national one, and in fact affected all other institutions of higher education in the country. In fact, other Donor Agencies had also expressed similar concerns. The Government was considering the issue of bonding staff who go for further training. If such bonding succeeded, then some stability could be guaranteed for those institutions undertaking extensive staff training programmes.

(f) MIN. 14/84 (b) CONTRIBUTION BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

The College had made some progress with respect to the institutionalization of Research and Development as follows:

- (i) A Research and Development Policy had been approved by the Board of Governors.
- (ii) A Research Vote had been created and some funds allocated.
- (iii) A research and Publications Committee had been formed.
- (iv) Some limited research activities had been initiated by joint efforts of Japanese Experts and Kenyan Staff.

It was NOTED with appreciation that JICA had responded positively by allocating some funds for a few research projects. In addition to this, approximately 800 books had been identified to be supplied to the College Library in the 1985/86 Fiscal Year. Of this number, 300 are already shipped and were expected to arrive any time.

It was AGREED that the College should provide JICA with a comprehensive plan for the development of the Library, stating very clearly the objectives and targets in terms of books (numbers and subject areas) and space during the next two or three years. The College would also submit detailed justification for requests for equipment and production units. The Mission emphasised that JICA insists on clear justification for all requests submitted for funding.

**MIN. 4/85: CURRENT MATTERS RELATED TO THE CONSOLIDATION OF THE PROJECT**

The Committee was INFORMED that most of the issues related to the consolidation of the Project had been fully discussed by the Mission and College Authorities the previous day, 3rd September, 1985.

**(a) PROCUREMENT OF STAFF**

Some improvement was REPORTED although two departments - Agricultural Engineering and Building & Civil Engineering - continued to experience problems of lack of qualified personnel.

The Chairman explained that shortage of qualified staff in certain specialisations was not peculiar to JKCAT. All higher education institutions (including the Universities) were experiencing the problem. It was possibly due to the rapid expansion which had taken place in higher education during the last decade.

It was SUGGESTED that appropriate strategies should be applied so that a reasonable staffing position can be attained, especially in the two departments which seem to be badly affected. Such strategies should include:

- (i) Immediate recommendations to the TSC whenever qualified and interested persons are located, so that they could be appointed.
- (ii) Provision of housing and other incentives.
- (iii) Recruitment of JKCAT graduates and provision for their training (locally and overseas) prior to their being appointed to the Assistant Lecturer Grade.

**(b) TRANSFER OF TECHNOLOGY**

It was POINTED OUT that effective transfer of technology was the key objective of the JKCAT Project. Consequently, the College Authorities should ensure that it was achieved during the period of consolidation. Special attention should be given to the following strategies:

- (i) Preparation of Course Outlines (or Schemes or Work) for all the Subjects, topics and sub-topics for all the Courses. Such outlines should be detailed enough to show the depth of coverage, practical or laboratory projects, time allocation, and bibliography.

(Such outlines should not necessarily restrict the teachers freedom in methodology, but may prove very useful to new teachers and foreign experts).

- (ii) Team teaching, especially between Japanese Experts and Kenyan Staff.
- (iii) Research activities, particularly joint research projects undertaken by Japanese Experts and Kenyan Staff.

It was NOTED with satisfaction that Japanese Experts and Kenyan Staff had embarked on the preparation and production of teaching manuals, booklets, and books to be used within the College, and possibly elsewhere. The Committee congratulated those who had started on such projects as they are certainly good strategies for transferring technology from person to person.

(c) STAFF TRAINING

The Committee was INFORMED that the College Authorities had expected that during the period of consolidation, the same number of scholarships would be available each year as had been the case previously. The Mission confirmed that the JICA Scholarship allocations for the Project would be 12 (1985), 11 (1986), and 10 (1987), making a total of 33 by the end of the consolidation period.

It was AGREED that:

- (i) The College must ensure that the apparent imbalance in Scholarship utilization by the departments is corrected before the end of the extended cooperation period.
- (ii) The College must develop strategies to ensure that as many trainees as possible are nominated so that whenever a nominee cannot be placed in a suitable institution other subject areas are taken care of. This is very crucial since training funds cannot be transferred from one fiscal year to another.
- (iii) JICA should continue to support short visits to Japan by College and Government Officials as it had done in the past.
- (iv) Internal/local training for BOG Staff and Technicians should be intensified. For overseas training, normal government regulations and procedures should be followed.

**MIN. 5/85: REPLACEMENT FUND/DEPRECIATION**

- (a) It was **NOTED** that the College makes an annual provision for the replacement of plant and machinery. In the 1985/86 estimates, for instance, the figures are as follows:

<u>ITEM</u>	<u>AMOUNT ALLOCATED (K£)</u>
School Vehicle	2,000
Electricity Plant	5,000
Water Plant	500
Machinery	<u>2,000</u>
Total	<u>9,500</u>

- (b) The Committee was informed that in cases of major replacements, the College would normally request the government to allocate funds under the Special Provisions Vote to cover such expenditure.
- (c) The problem of spare parts and maintenance has worried the College a bit, especially with regard to Kitchen equipment, teaching equipment, and the telephone system. In fact, the present telephone PABX equipment broke down several months ago and spare parts are not available locally.

Considering the issue of spare parts, it was **AGREED** as follows:-

- (i) JICA should continue the practice of including spare parts as part of the package for any equipment or machinery supplied to the college.
- (ii) Each equipment or machinery must be accompanied by a manual and relevant information on where and how the College may purchase spare parts for the item in future.
- (iii) JICA (Nairobi) should arrange a meeting with NEC Agents so that the issue of repairing the PABX machine can be resolved.

**MIN. 6/85: FOLLOW-UP AND JOB PLACEMENT OF GRADUATES**

The crucial importance of follow-up of past graduates was emphasised. It was further **NOTED** that the College Authorities had agreed during the previous meeting that they would undertake activities for job replacement of graduates and marketing of College Programmes.

It was therefore strongly **SUGGESTED** that:

...../7



- (a) The College should formalise follow-up and job placement of graduates as regular activities appropriately located within the organization.
- (b) Follow-up data be stored and analysed for use in improving the College training programmes. If possible, the mini-computers already available should be used for storage and processing of the data.

MIN. 7/85: CLOSING REMARKS

The Chairman thanked the Mission for the continued interest and support of the Project by the Japanese Government. He further pointed out that JICA had played an important role in making the JKCAT Project a reality. The Government of Kenya was determined to ensure that the Project Consolidation Period succeeds, and if possible, it should lead to further expansion.

Finally, he thanked Professor Nakagawa, the Mission Leader, for his personal interest in the Project and long association with the College. He wished him and the Mission Members a safe return to Japan.

THERE BEING NO OTHER BUSINESS, THE MEETING CLOSED AT 11.20 A.M.

[The Committee toured the College facilities before the Luncheon].

MINUTES APPROVED FOR CIRCULATION BY ..... DATE .....

MINUTES CONFIRMED THIS ..... DAY OF ..... 19.....

.....  
CHAIRMAN

.....  
SECRETARY

GAO/tnk

### 3. プロジェクト概要

(昭和60年5月)

#### 1. プロジェクトの目的

農業及び工業の分野における地方の開発、発展に寄与する「中堅技術者」の養成。

#### 2. 協力形態

##### (1) 無償資金協力(3年間)

- イ. 期間：昭和53年10月～56年9月
- ロ. 内容：建物施設の建設、教育機材の供与
- ハ. 予算：48億円
- ニ. 着工：昭和53年10月
- ホ. 完工：昭和56年12月

##### (2) プロジェクト方式技術協力(5年間+延長3年間)

- イ. 期間：昭和55年4月19日～60年4月18日
- ロ. 内容：専門家の派遣(22名/年)  
協力隊員の派遣(16名/年)  
機材の供与(3億円)  
研修員の受入(12名/年、60名/5年)  
留学生の受入(2名/年、10名/5年)
- ハ. 協力延長：昭和60年4月19日～63年4月18日

##### (3) 無償資金協力

- イ. 期間(工期)：昭和59年3月～60年3月
- ロ. 内容：附属農場整備
- ハ. 予算：7億8千万円

#### 3. 協力相手方

教育科学技術省 (Ministry of Education, Science and Technology)

Minister : Hon. Prof. Janathan Ng'eno (大臣)

P.S. : Mr. D. Mwiraiq (次官)

Director : Mr. D. M. Mbiti (局長)

#### 4. 農工大学開校

昭和56年5月 (第1回生入学)

昭和57年3月 (大統領御臨席の下、正式開校式典挙行)

#### 5. 第一回農学部卒業式 昭和59年4月5日

#### 6. 日本側の協力状況

- (1) 無償資金協力(当初施設)：完工



電気工学科	30	(11) 30	(4) 30	(3) 28	118
電気コース					
電子コース					
計	112	(16) 112	(5) 116	(4) 108	448
総計	198	(44) 198	(33) 202	(4) 108	706

8. 農工大学のスタッフ状況

- (1) 学長 (Principal) Mr. J. M. Githaiga  
(学歴: B. Ed - E. A. M. Sc. - Mc Gill)  
(前職: Head Master, Alliance High School)
- (2) 副学長 (Vice Principal) Dr. G. A. Orie  
(学歴: B. V. Sc - E. A. MPA - Ife, Ph. D - VPI & SU)  
(前職: Vice Principal, Egerton College of Agriculture)
- (3) 学部長 (Dean)
- 農学部 Mr. S. S. Weru  
(学歴: Dip - Egerton, B. Sc - Calif, M. Sc - Silsoe)  
(前職: Senior Lecturer, Egerton College)
- 工学部 Mr. J. N. Mureithi  
(学歴: M. Sc - Elect)  
(前職: Deputy Head, Kenya Polytechnic)
- (4) 教員数 (ケニア側 TSC 雇用分のみ。BOG は含まず。)

学 部	学 科	ケニア側	日 本 側			総 計
			専 門 家	協 力 隊 員	計	
農学部	園芸	10	1	2	3	13
	農業工学	9	1	3	4	13
	食品加工	11	2	3	5	16
	農場	—*	1	1	2	2
	計	30	5	9	14	44
工学部	建築・土木	16	4	1	5	21
	機械	22	2	2	4	26
	電気・電子	16	2	2	4	20
	計	54	8	5	13	67
総計		84	13	14	27	115

注) 他に、中野アシスタントリーダー (業務調整専門家) 1名、岡田 (同) 教育工学専門家 1名。  
日本語隊員 1名、総計 専門家 15名、隊員 15名、計 30名。

(\*) BOG雇用: 25名。

4. 専門家派遣実績

。は現在派遣中

昭和60年9月1日現在

氏名	指導科目	派遣期間	派遣人数	生年月日	所属先	出身校
(チームリーダー)						
Total 54						
1 川口 龍夫	チームリーダー(電気)	55.10.6-58.10.5	36	T. 8. 5.19	新日本技術コンサルタント	京大工学部 S48卒
2 和田 宏	チームリーダー	58.11.1-60.4.20	18	T. 7. 2.11		京大農学部農学博士 S47卒
3 杉山 隆彦	チームリーダー代行 (60.4.19発令)	55.10.6-62.4.20	—	S. 15. 7.29	(JOCV.OB)	京大農学修士 S41卒
(アシスタントチームリーダー)						
Total 57						
4 中島 行男	アシスタントチームリーダー	55.11.16-58.3.31	29	S. 23. 5.16	JICA	法政大法学部 S46卒
5 中野 武	アシスタントチームリーダー	58.5.21-61.5.20	28	S. 24. 3.9	JICA	名古屋市大経済学部 S46卒
3 杉山 隆彦	アシスタントチームリーダー(食加)	55.10.6-62.4.20	—	S. 15. 7.29	(JOCV.OB)	京大農学修士 S41卒
6 木村 伸一	アシスタントチームリーダー(建築)	56.3.29-62.4.20	—	S. 21. 2.6	(JOCV.OB)	福岡建築 S45卒
(農学部 園芸)						
Total 169 (内短12)						
7 守屋 暢司	園芸学	55.10.24-62.4.20	59	S. 19. 9.18	(JOCV.OB)	岡山大学農学部 S45卒
8 庵原 遜	野菜(アシスタントチームリーダー)	56.3.29-57.11.11	20	T. 3. 3.2	フarrowンサエティ	京大農学部農学博士 S21卒
9 早川 慎治	作物学	56.5.22-58.5.21	24	S. 14. 1.4	静内農業高校	北大農学部 S46卒
10 真山 滋志	植物病理学	58.2.26-58.4.2	短 2		香川大農学部助手	京大農学部農学博士、 南イリノイ大 Ph.D.
11 酒井 信六	昆虫学	58.2.21-58.3.23	短 2		大東文化大教養学部教授	京大農学部農学博士
12 森田 信晴	作物学	58.4.1-62.3.31	29	S. 22. 4.10	(JOCV.OB)	東京農大農学部 S45卒
13 森次 益三	作物学	58.4.9-59.4.8	12	S. 7. 7.28	岡山大学農業生物助手	京大農学博士 S55取得
14 関 太郎	植物分類学	58.11.7-59.11.6	12	S. 9.12.5	広島大理学部助教	広島大理学博士 S41取得
15 松原 幸子	植物病理学	58.12.22-59.2.16	短 2		岡山大学農学部助教	京大農学部農学博士
16 奥 八郎	植物繁殖学	58.12.29-59.2	短 2		岡山大学農学部教授	京大農学部農学博士
17 高見 伸治	植物生理学	59.10.2-59.12.1	短 2		広島大理学部講師	
18 藤 目 幸弘	作物園芸	60.7.2-61.7.1	1	S. 20. 1.5	香川大農学部助教	京大農学博士
19 真山 滋志	植物病理学	60.8.29-60.10.22	短 2		香川大農学部助手	京大農学博士、 南イリノイ大 Ph.D.(理学)

氏名	指導科目	派遣期間	派遣	生年月日	所 風 先	出身校
(農学部 農業工学)						
Total 138 (内短11)						
20 中澤宗一	農業機械	56. 3. 15-58. 9. 30	31	S. 2. 3. 22	日本工営	東京農林専門学校 S.22卒
21 釣田 薫	農業土木	56. 3. 29-60. 4. 20	49	S. 23. 7. 24	(JOCV. OB)	岡山大学学部 S.48卒
22 松田清明	農業機械	57. 10. 8-59. 4. 7	18	S. 19. 1. 5	帯広畜産大	北大農学博士 S.46取得
23 坂井純	農場管理	58. 7. 29-58. 8	短 1		九州大学学部教授	
24 岩崎浩一	農業機械	58. 10. 27-59. 1. 26	短 3		九大農学部農業工学科	
25 木村俊範	農業機械	58. 11. 1-59. 10. 31	12	S. 23. 8. 1	岩手大農学部助手	北大農学博士
26 平塚 彰	土木工学	58. 11. 1-59. 10. 31	12	S. 27. 3. 31	大阪産業大工学部	大阪工大工学修士 S.51卒
27 菊沢正裕	農業土木(応用力学)	59. 12. 28-60. 3. 10	短 3		京大農学部助手	
28 島田 滑	農業土木(土質力学)	59. 12. 28-60. 4. 2	短 3		石川県立農業短大助手	
29 渡辺 忠	農業土木	60. 1. 16-60. 2. 4	短 1		岡山大学学部教授	
30 鳥巢 諒	農業機械	60. 4. 16-61. 4. 15	5	S. 16. 5. 18	岩手大農学部助教授	九大農学博士
Total 100 (内短9)						
(農学部 食品加工)						
30. 3 杉山隆彦	食品加工(アシスタントリーダー)	55. 10. 6-60. 4. 20	59	S. 15. 7. 29	(JOCV. OB)	京大農学修士 S.41卒
31 塚坂秀明	食品加工	55. 12. -56. 1	短 2		広島大学生物生産工学教授	北大農学博士
32 浅利喬泰	加工施設	58. 2. 26-58. 4. 2	短 2		東京農業大学助教授	
33 宮本 拓	食品微生物	58. 6. 16-59. 6. 15	12	S. 24. 9. 10	岡山大学学部助手	岡山大学学修士 S.49卒
34 渡辺泰男	食品加工工場管理	59. 1. 21-61. 1. 20	20	S. 7. 3. 1	渡辺海外起業	神戸大経済学部 S.31卒
35 橋本秀夫	食品衛生学	59. 9. 26-59. 11. 25	短 2		広島大学生物生産学部教授	
36 久保田 清	食品化学工学	59. 9. 26-59. 10. 25	短 1		広島大学生物生産学部教授	
37 岩本克己	牛乳プラント据付	60. 5. 18-60. 6. 2	短 1		深尾精機	
38 岡 孝夫	"	60. 5. 18-60. 6. 2	短 1		新東京乳機	

氏名	指導科目	派遣期間	派遣人員	生年月日	所属先	出身校
土建 Total 209 (内短4)						
(工学部 土木建築)						
39 勝田 順一郎	水資源	55.10.6-57.10.5	24		東京都庁	日大工学部
40 榎川 哲光	構築材	56.3.1-59.2.28	24	S.16.11.25	高周波熱線機	京大工学部修士 S46卒
41 六車 照	建築	58.3.7-58.4.3	短1		京大建築学教授	京大工学部工学博士 S44卒
42 井上 英文	建(アシスタント)	58.3.29-58.6.29	28	S.18.8.27		日本理工学部修士 S41卒
43 木村 伸一	建(アシスタント)	56.3.29-62.4.20	55	S.21.2.26	(JOCV.OB)	福岡建築
44 丘 依	水資源工学	58.3.23-61.3.22	29	S.8.1.28	パスト建築設計室 (JOCV.OB)	京大工学部修士 S48卒
45 岡田 佳久	建築	58.4.9-60.8.8	28	S.24.11.6		東京都立大修士、加州立大修士 S49取得
46 荒井 徳昭	土木	59.4.21-62.4.20	17	S.10.3.12	福山大工学部助教授	
47 中山 昭夫	建築	59.10.16-59.11.10	短1		JICA 国際協力専門員	
47 野町 隆三	建築設計	60.2.9-60.4.8	短2			
機工 Total 135 (内短5)						
(工学部 機械工学)						
48 丑田 晋	建築機械	56.3.29-58.3.28	24	S.21.1.14	国土開発工業	建設大専校 S42卒
49 藤井 佳隆	機械工学	56.3.29-58.9.30	30	T.6.7.30	国際協力センター (JOCV.OB)	東京商工専門学校 S23卒
50 鈴木 志弘	自動車	56.5.22-59.5.21	36	S.13.7.29		静岡工業高校 S33卒
51 二宮 潤	建設機械	58.5.21-59.6.2	13	T.8.5.30		東京工大機械工学 S17卒
52 藤山 英嗣	建設機械	58.12.29-59.4.9	短4	S.19.4.18	マルマ重車輻輳	北海道自動車短大 S40卒
53 森田 啓二	建設機械	59.3.24-62.4.20	12	S.2.3.25	三菱重工業㈱	熊本工専 S22卒
54 宮本 和夫	農業機械	59.3.24-59.12.15	9	S.14.7.2	帯広畜産大教授	北大農学部博士 S54取得
55 渡辺 功次	建設機械	59.5.29-59.6.6	短1		建設省建設機械課長	
56 長谷川 武美	建設機械	60.4.16-62.4.15	5	S.24.8.29	マルマ重車輻輳	中日本自動車短大 S45卒
57 安部 美	農業機械	60.8.20-61.8.19	1	S.14.8.20	愛媛大農学部助教授	九大農学部博士

氏名	指導科目	派遣期間	派遣人員	生年月日	所属先	出身校
(工学部 電気電子)						
電電 Total 88 (内短6)						
1	電気(チームリーダー)	55.10.6-58.11.5	—	T. 8. 5.19	新日本技術コンサルタント	京大工学部 S.18卒
58	電	55.12.7-57.12.6	24	S. 20. 7. 3	(JOCV.OB)	九州工大修士 S.45卒
59	電	58. 3. 7-58. 4. 3	短 1		京大電子学教授	大阪大工学博士
60	電	58. 4. 9-60. 4. 8	24	S. 24. 2. 9	東京電気工務所 (JOCV.OB)	電気通信大短大 S.46卒
61	電	59. 1.15-59. 3.15	短 2	S. 6. 2. 9	鳥取大工学部教授	大阪府大工学博士 S.52取得
62	電	59. 1.15-59. 4.18	短 2	S. 19. 9. 20	鳥取大電子学助教授	九大工学博士 S.57取得
63	電	59. 3. 5-62. 4.20	17	S. 14.10.24	JICA国際協力専門員 (JOCV.OB)	大阪大工学部修士 S.44卒
64	電気工学	59. 3. 9-61. 4.20	17	T. 15. 6. 7		八幡浜商業学校 S.18卒
65	電気工学	59. 7.14-59. 8. 6	短 1		鳥取大工学部教授	
(農場)						
Total 3						
66	作物	58. 4. 1-62. 3.31	—	S. 22. 4.10	(JOCV.OB)	東京農大
66	農業土木	60. 6.17-61. 6.16	3	S. 30. 2. 5	日本工営㈱	鳥取大農学修士
(その他)						
その他 Total 19 (内短1)						
67	教育学	59. 3. 8-61. 4.20	18	S. 27. 6. 3	(JOCV.OB)	お茶の水女子大 理学修士 S.52卒
68	建物施設管理	59. 7.27-59. 8.10	短 1		株式会社久米建築事務所	



5. 青年海外協力隊員派遣実績

。現在派遣中

9月現在

No.	氏名	年次	指導科目	派遣期間	派遣先	生年月日	出身校
(園芸) 園芸 Total 129							
1	鈴木 洋二	55 III	作物	56. 3. 6 ~ 58. 3. 5	24	S. 32. 12. 25	山形大学
2	中西 建二	56 II	土壌肥料	56. 10. 7 ~ 58. 10. 6	24	S. 32. 11. 8	大阪府立大
3	井戸 栄治	56 II	植物学	57. 9. 7 ~ 58. 10. 6	13	S. 27. 10. 17	東大 理学博士
4	高尾 晃彦	58 I	作物	58. 7. 29 ~ 60. 7. 28	24	S. 34. 6. 29	琉球大 農学部
5	田中 樹	58 II	土壌肥料	58. 10. 7 ~ 60. 10. 6	21	S. 35. 7. 5	弘前大 農学部
6	高橋 誠	58 II	花卉園芸	58. 10. 7 ~ 60. 10. 6	21	S. 28. 10. 11	東京農大 農学部
7	田中 昭彦	60 I	家畜飼育	60. 7. 26 ~ 62. 7. 25	2	S. 39. 8. 11	福岡県立農大 学校 指導科
(農業工学) 農工 Total 116							
8	高見 順	55 III	数学	56. 3. 6 ~ 56. 6	4		(物故)
9	山本 郁夫	56 II	農業機械	56. 10. 7 ~ 59. 5. 6	32	S. 30. 1. 18	北大 農学部
10	伊佐 喜代治	57 III	農業土木	58. 1. 21 ~ 60. 1. 20	24	S. 31. 1. 28	東海大 工学部
11	片平 寛	58 II	農業機械	58. 10. 7 ~ 60. 10. 6	21	S. 35. 4. 27	岩手大 農学修士
12	松井 秀樹	58 IV	農業機械	59. 4. 4 ~ 61. 4. 3	19	S. 34. 3. 2	大阪大 工学修士
13	長谷川 庄司	59 I	農業土木	59. 7. 27 ~ 61. 7. 26	14	S. 33. 2. 26	立命館大 理工学部
14	江島 均	60 I	農業機械	60. 7. 26 ~ 62. 7. 25	2	S. 35. 7. 5	北大 農学部
(食品加工) 食加 Total 119							
15	小崎 浩	55 III	食品加工	56. 3. 6 ~ 59. 5. 5	38	S. 30. 2. 22	帯広畜産大 畜産学修士
16	西山 栄徳	57 I	食品加工代学	57. 7. 30 ~ 60. 7. 29	36	S. 31. 8. 14	帯広畜産大 畜産学部
17	秋本 徹	58 II	食品加工	58. 10. 7 ~ 61. 10. 6	23	S. 34. 11. 12	近畿大 農学部
18	古川 隆利	58 III	食品加工(肉)	59. 1. 21 ~ 61. 1. 20	20	S. 29. 10. 12	酪農学園大学 農学部
19	荒西 睦雄	60 I	食品加工	60. 7. 26 ~ 62. 7. 25	2	S. 35. 2. 14	愛媛大 農学部

No.	氏名	年次	指導課目	派遣期間	派遣年月	生年月日	出身校
土建 Total 52							
〈工学部〉(土木建築)							
20	村上正海	56 I	土木水理	56. 7. 29 ~ 58. 7. 28	24	S. 29. 12. 16	京大 工学部修士
21	渡辺岳志	58 I	土木工学	58. 7. 29 ~ 61. 7. 28	26	S. 34. 2. 3	日大 生産工学部
22	古木泰雄	60 I	測量	60. 7. 26 ~ 62. 7. 25	2	S. 33. 2. 6	東京農大 農学部
機工 Total 114							
(機械工学)							
23	時田邦浩	55 III	農業機械	56. 3. 6 ~ 59. 9. 6	42	S. 32. 1. 25	岐阜大 農学部
24	高橋勉	56 I	自動車	56. 7. 29 ~ 58. 7. 28	24	S. 26. 3. 3	都立八王子高等職業訓練校
25	山本日出樹	58 I	自動車工学	58. 7. 29 ~ 61. 7. 28	26	S. 34. 2. 5	兵庫総合高等職業訓練校
26	井上高司	シニア	農業建設機械	58. 11 ~ 61. 11	22	S. 31. 11. 20	中部日本自動車整備学校
電電 Total 68							
(電気電子)							
27	遠藤晋	55 III	電子機器	56. 3. 6 ~ 58. 3. 5	24	S. 30. 12. 23	大阪工大 工学部
28	深田秀夫	57 III	電気工学	58. 1. 21 ~ 60. 1. 20	24	S. 31. 2. 5	千葉工大 工学部
29	鎌谷啓行	59 I	電子工学	59. 7. 27 ~ 61. 7. 26	14	S. 34. 12. 14	姫路工大 工学部
30	井上晋次郎	59 III	電気機器	60. 3. 29 ~ 62. 3. 28	6	S. 32. 11. 24	大阪工専 電気工学科
日本語 Total 80							
〈日本語〉							
31	川窪敬子	55 IV	日本語	56. 3. 31 ~ 58. 3. 20	24	S. 30. 10. 24	東京外大
32	長瀬修	57 III	日本語	58. 1. 21 ~ 61. 1. 20	32	S. 34. 2. 5	上智大 外国語学部
33	中沢秀樹	57 IV	日本語	58. 4. 1 ~ 60. 3. 31	24	S. 27. 10. 1	上智大 英米文学修士

総計 678

6. JICA 研修員受入実績

55年度 6名

農学部

氏名 (所属学科)	研修科目	研修期間	受入先	職歴	最終学歴
1 E.M.Gichuki (園)	昆虫学	56. 1. 8-58. 3. 31 (帰国)	岡山大農学部	ナイロビ大学 動物学部教官	ナイロビ大学動物学 (1975卒)
2 D.O.Sigunga (園)	育種学	56. 2. 11-58. 3. 31 (帰国)	岡山大農学部	農業省農業試験場	ナイロビ大学農学修士 (1980卒)
3 G.M.Kenji (食)	食品分析	56. 2. 12-57. 12. 27 (帰国)	岡山大農学部	大統領府食品検査官	ナイロビ大学理学 (1976卒)

工学部

4 C.W.Nyukuri (電)	電気設備	56. 2. 11-57. 3. 31 (帰国)	京都大工学部		ナイロビ大学電気工学
5 P.N.Kemau (土建)	石工	56. 2. 11-57. 3. 31 (帰国)	京都大工学部		ケニヤポリテク 土木建築
6 A.Wanyoike (土建)	木工	56. 1. 9-57. 3. 31 (帰国)	生田金具工・住友建設その他		ケニヤポリテク

(Mr.Litali は日本研修中に物故)

57年度 14名

農学部

7 E.E.Omutere (Miss) (園)	果樹栽培	57. 6. 17-59. 3. 31 (帰国)	岡山大農学部	農業省地方事務教官	ナイロビ大学一般農学
8 M.G.Mbugua (園)	蔬菜栽培	57. 6. 17-59. 3. 31 (帰国)	岡山大農学部	農業省地方事務教官	ナイロビ大学作物農場管理
9 E.N.Kamotho (農工)	農業土木	57. 6. 17-58. 12 (帰国)	東京農大農学部	高等学校農学教師	ペイルート アメリカン大学農学部
10 R.B.Akenga (農工)	農業機械	57. 6. -59. 1 (帰国)	東京農大農学部	農業省地方開発担当官	ナイロビ大学農学部
11 M.C.Kiiyukia (食)	食品衛生	57. 6. 17-59. 3. 31 (帰国)	広島大生物生産学部	自然資源環境省 水産教官	ナイロビ大学生物化学科

工学部

12 S.M.Njoroge (土建)	配管	57. 6. 24-58. 7. 4 (帰国)	大阪電気暖房		
13 S.N.Mugera (土建)	水資源工学	57. 10. 5-59. 3. 25 (帰国)	京大工学部	水開発省地方陸水担当	ナイロビ大学地形学(他)
14 E.D.Kamara (土建)	土木	57. 10. 5-59. 3. 25 (帰国)	京大工学部	ケニヤ鉄道公社技術補	ナイロビ大学土木科

15	A. A. kumu	(土建)	建	築	57. 10. 5-59. 3. 25 (帰国)	福山大工学部	国立住宅公社技術員	ナイロビ大学建築科
16	M. F. Oduori	(機工)	農業機械	農業機械	57. 10. 5-59. 3. 25 (帰国)	帯広畜産大 農業工学科	ケニヤ鉄道公社技術補	ナイロビ大学機械科
17	S. N. Muiru	(機工)	農業機械	農業機械	57. 6. 24-58. 7. 4 (帰国)	京大工学部		
18	C. Njoroge Ashford	(機工)	土木機械	土木機械	57. 6. 24-58. 11 (帰国)	京大工学部		
19	J. P. Mburu	(電)	発電	電	57. 6. 24-58. 7. 4 (帰国)	京大工学部		
20	S. O. Kaloo	(電)	電気施工	電気施工	57. 8 -58. 4 (帰国)	JICA 八王子研修センター	JICA カウンターパート種ではなく 一般集団研修コース種で実施	

58年度 13名

農学部

21	Watako A Onyango	(園)	花	卉	59. 1. 31-60. 4. 2	岡山大学農学部	農業省研究官	ナイロビ大学農学部 (1980卒)
22	J. T. Makanga	(農工)	農業機械	農業機械	59. 1. 31-60. 3. 4	帯広畜産大	農業省技官	ケニヤポリテク機械工学(1981卒)
23	P. N. Kariuki	(食)	食品加工機	食品加工機	58. 6. 23-59. 6. 22	帯広畜産大		

58年度

工学部

24	D. G. Waweru	(土建)	建設施工	建設施工	58. 11. 22-59. 12. 26	京大工学部		ケニヤポリテク構造学科(1981卒)
25	M. S. Ibrahim	(土建)	水資源工学	水資源工学	58. 11. 22-59. 12. 26	鳥取大工学部	水資源省技術補	ケニヤポリテク構造工学(1980卒)
26	S. M. Maina	(機工)	自動車	自動車	58. 11. 22-59. 12. 26	大阪産業大工学部	建設省	ケニヤポリテク機械工学(1980卒)
27	A. C. Juma	(機工)	土木機械	土木機械	58. 11. 22-59. 12. 26	京大工学部	Hughes Ltd	ケニヤポリテク (1974卒)
28	A. O. Odawa	(機工)	農業機械	農業機械	58. 11. 29-59. 12	京大農学部		ケニヤテクニカル 教員養成大学(1981卒)
29	G. N. Thoigu	(機工)	数学	学	58. 6. 23-59. 6. 22	大阪工大		
30	J. M. Mwangi	(電)	電気機械	電気機械	58. 11. 22-59. 12. 26	京都大工学部		ケニヤポリテク電力量科(1979卒)
31	E. W. Mwangi	(電)	電子工学	電子工学	58. 11. 22-59. 12. 26	京都大工学部		ケニヤポリテク電子 (1979卒)
32	E. N. Ndungu	(電)	電子工学	電子工学	58. 11. 22-59. 12. 26	鳥取大工学部	イーストアフリカ電力会社	ケニヤポリテク電気電子(1982卒)
33	E. M. Mwaniki	(電)	電子工学	電子工学	58. 11. 22-59. 12. 26	鳥取大工学部		

59年度						
農学部						
34	G.C.Walyaro(Mrs)	(食)	食品加工 (パン)	59. 4. 17-59. 12. 24	日本パン技術研究所	ナイロビ大学家庭経営 (1974卒) モスクワ大工学部 (1980卒)
35	J.A.Owaka	(農工)	農業機械	59. 4. 30-60. 7. 3	岩手大	農業省技術者
36	S.G.G.Gichuru	(食)	微生物学	59. 12. 6-60. 10. 1	岡山大 (農)	
59年度						
工学部						
37	S.J.Nyaga	(電)	電気通信	59. 4. 17-60. 7. 3	鳥取大学 (工)	情報放送省 ケニヤ警察学校通信 (1981卒)
38	J.O.Otieno	( )	発電工学	59. 12. 6-60. 12. 25		Doshie Co.Ltd ケニヤポリテク電気電子 (1983卒)
39	J.O.Konyango	( )	電力	同上		モンバサポリテク テクニシヤン (1982卒)
40	C.Wamalwa	( )	電子工学	同上		労働省 ケニヤポリテク電子 (1982卒)
41	James G.Kigia	(機工)	自動車工学	60. 2. 29-61. 2. 28	大阪産業大学	JKCATエンジニアリング テクニシヤン (1979卒)
60年度						
工学部						
42	J.M.Kabira	(機械)	機械工学	60. 4. 22-61. 3. 20	(英) 職業訓練 板金加工、溶接	ケニヤポリテク工学部 (1982卒)
43	N.W.Waithaka	(土建)	建築	60. 4. 22-61. 3. 20	(英) 職業訓練 木工	ケニヤポリテク工学部 (1980卒)
44	P.K.Kamau	(電)	電子工学	60. 8. 1-61. 10. 4	鳥取大学 (工)	ケニヤポリテク工学部 (1982卒)
45	G.W.Wanjau	(機械)	機械工学	60. 8. 1-61. 7. 5 60. 10. 7-61. 9. 29	熊本大学 生産機械工学	ケニヤポリテクニク 工学部 (1972卒)
46	H.G.Mwaura	(土建)	コンクリート 技術	60. 8. 23-61. 4. 2	京都大学 (工)	" (1976卒)
47	G.M.Thumbi	(土建)	水管理	60. 9. 5-61. 10. 4	大阪産業大学 筑波農業 センター	" (1982卒)
9. 10 現在						

高級及び準高級研修員 12名

年度	No.	氏名	研修期間	所属先、身分	研修先
55	1	Wangai	55. 12. 5-55. 12. 24	高等教育省次官	文部省、JICA 岡山大学、京都大学、その他
	2	Mundara(Miss)	55. 12. 5-55. 12. 24	ケニヤポリテク制度管理学科長	
	3	Weru	55. 12. 5-55. 12. 24	エジプトン大農業工学科	
	4	Nganga	55. 12. 5-55. 12. 24	ケニヤポリテク土木建築学科長	
	5	Kirkwood	55. 12. 5-55. 12. 24	ケニヤポリテク	
	6	Maina	55. 12. 5-55. 12. 24	ケニヤポリテク電子電気科長	
57	7	J.T.Arap Leting	57. 6. 3-57. 6. 17	高等教育省次官	文部省、JICA 岡山大学、京都大学、その他
	8	J.M.Kamunge	57. 6. 3-57. 6. 17	高等教育省高等教育局長	
	9	J.M.Githaiga	57. 6. 3-57. 6. 17	JKCAT学長	
	10	J.M.Mureithi	57. 6. 3-57. 6. 17	JKCAT工学部長	
58	11	Macharia(Mrs)	58. 10. 24-58. 11. 18	高等教育省高等教育局次長	文部省、JICA 岡山大学、京都大学、帯広畜産大学、その他
	12	E.M.Kahangi(Mrs)	58. 10. 24-58. 11. 18	JKCAT園芸学科長	
59	13	C.Kasina	60. 2. 2-60. 2. 15	教育省高等教育局次長	文部省、JICA 岡山大、京都大、鳥取大他
	14	A.Kibebe		教育省高等教育局上級主幹	
	15	G.A.Orie		JKCAT副学長	

7. 文部省国費留学生受入実績

年度	No.	氏名 (所属学科)	研修科目	研修期間	受入先	職歴	最終学歴
56	1	S.Moturi (食)	食品化学	56. 4-58. 3(帰国)	広島大農芸化学修士		ナイロビ大学建築設計(1977卒)
	2	I.K.Inoti (機工)	農業機械	56. 4-58. 3(帰国)	京大農業工学修士		
57	3	P.N.Kingori (園)	植物病理	57. 10-60. 4	東京大研究生		
	4	S.Mushoki (電)	電子工学	57. 10-60. 10	電通大研究生		
58	5	M.C.Makokha (農工)	土壌水理	58. 4-61. 3	琉球大研究生		
	6	R.G.Omolo (食)	畜産加工	59. 4-62. 4	帯広畜産大		
60	7	G.Wanyona (土建)	建築施工	59. 4-62. 4	京大建築施工		
	8	J.K.Z.Mwatelelah (土建)	都市計画				

8. J. I. C. A. ・文部省 研修員派遣実績と計画

September ・ 1985

カウンターパート派遣 総数	R / D計画数	派遣数60年3月まで	差	60年派遣予定	差	61年派遣予定	差	62年派遣予定	差	備考
JICA 全体	—	55		12(67)		11(78)		10(88)		
1. 技術研修	60	40	-20	10(50) 6名派遣済	-10	13(63)	+3	10(73)	+13	
農学部	21	14	-7	3(17)	-4	4(21)	0	5(26)	+5	
園芸	6	5	-1	2(7)	+1	0(7)	+1	1(8)	+2	
農工	8	4	-4	0(4)	-4	3(7)	-1	1(8)	0	
食品	7	5	-2	1(6)	-1	1(7)	0	2(9)	+2	
農場	0	0	0	0	0	0(0)	0	1(1)	+1	
工学部	39	26	-13	7(33)	-6	8(41)	+2	5(46)	+7	
土木	16	8	-8	3(11)	-5	3(14)	-2	2(16)	0	
機械	9	8	-1	3(11)	+2	3(14)	+5	1(15)	+6	
電気	14	10	-4	1(11)	-3	2(13)	-1	2(15)	+1	
図書館	0	0	0	0	0	1(1)	+1	0(1)	+1	
2. 視察研修員	0	15		2(17)		3(20)		3(23)		
その他の ケニア国際研修 センター JOCV-種		1 0		1 1		0		0		

注1. 上記には、日本研修中物故1名を含みません。

注2. ( )内は、累計。

J. I. C. A. 文部省 研修員派遣実績と計画

September - 1985

カウ ン タ ー 派 遣 総 数	R / D 計画数	派遣数60年3月まで	差	60年派遣予定	差	61年派遣予定	差	62年派遣予定	差	備 考
文部省留学生全体	10	7	-3	2(9)	-1	3(12)	+2	3(15)	+5	
農 学 部	5	4	-1	1(5)	0	1(6)	+1	2(8)	+3	
園 芸	2	1	-1	1(2)	0	0(2)	0	0(2)	0	
農 工	1	1	0	0(1)	0	0(1)	0	2(3)	+2	
食 品	2	2	0	0(2)	0	1(3)	+1	0(3)	+1	
工 学 部	5	3	-2	1(4)	-1	2(6)	+1	1(7)	+2	
土 木	2	1	-1	1(2)	0	0(2)	0	1(3)	+1	
機 械	1	1	0	0(1)	0	1(2)	+1	0(2)	+1	
電 気	2	1	-1	0(1)	-1	1(2)	0	0(2)	0	



1985年度 JICA・文部省 研修員 派遣実績と計画

JICA 研修員

No	氏 名	学 部	学 科	研修科目	受 入 期 間	受入先
1	V. W. Ngumi(Miss)	農 学 部	園 芸	植物生理	'85-09-16 ~ '86-03-22	広島大
2	L. S. Mwajumwa	農 学 部	食 品	果実加工	'85-09-30 ~ '86-04-30	香川大
3	W. N. Gachathi	農 学 部	園 芸	農 協 論	'86-03- ~ 6ヶ月	岡 山 大
4	J. M. Kabira	工 学 部	機 械	溶接*板金	'85-04-18 ~ '86-03-20	集団研修
5	N. W. Waitthaka	工 学 部	機 械	木 工	'85-04-18 ~ '86-03-20	集団研修
6	A. W. Wanjau	工 学 部	機 械	機械実験	'85-08-01 ~ '86-07-05	熊本大
7	P. K. Kingara	工 学 部	電 気	電 子	'85-08-01 ~ '86-10-04	鳥 取 大
8	H. G. Mwaura	工 学 部	土 建	建 築	'85-08-23 ~ '86-04-02	京 都 大
9	G. M. Thumbi	工 学 部	土 建	灌漑*衛生	'85-09-05 ~ '86-10-04	大阪産大
10	F. W. Simba	工 学 部	土 建	住宅設計	'85-09-30 ~ '86-11-01	福 山 大
11	D. M. Mbiti	MOEST		視 察		
12	P. M. Githingi	ナイロビ大		視 察		

文部省留学生

No	氏 名	学 部	学 科	研修科目	受 入 期 間	受入先
1	J. K. Mwatelah	工 学 部	土 建	都市計画	'85-10 ~ '88-03	鳥 取 大
2	H. Murage	農 学 部	園 芸	育 種	'86-1 ~ '88-03	岡 山 大